

平成20年度

# 調査研究助成事業報告書

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会

## 目 次

1 . 研究主題	... P 3
2 . 研究概要	... P 3
3 . 取り組みの趣旨	... P 3
4 . 研修全日程と内容	... P 3
体験型防災訓練の実施についてのお願い	( 資料 1 ) ... P 5
5 . 体験型防災訓練 全 4 回実施内容と報告	
( 1 ) 第一回 地域・P T A ・職員合同防災研修会 開催要項	... P 7
第一回 地域・P T A ・職員合同防災研修会 報告	... P 8
( 2 ) 第二回 職員のシミュレーション 実施要項	... P 10
第二回 職員のシミュレーション 実施要項 報告	... P 14
( 3 ) 第三回 地域・P T A ・職員合同防災研修会 開催要項	... P 15
第三回 地域・P T A ・職員合同防災研修会 報告	... P16
( 4 ) 第四回 体験型防災訓練 実施要項	... P19
第四回 体験型防災訓練 報告	... P23
第四回 体験型防災訓練 地域・保護者配布資料	( 資料 2 ) ... P27



## 体験型防災訓練～要援護者支援のための防災訓練～ 実践報告

### (1) 研究主題

特別支援学校として、支援を必要とする子どもたちへの相談やPTA共催の交流活動を通して地域支援事業を展開し、地域センター的な機能を発揮している。

平成20年度は、地域との合同開催による要援護者災害活動対策研究事業を実施し、「住みよい安心な地域づくり」に向けた研究に取り組む。

### (2) 研究概要

本校は神奈川県西部に位置し、周辺地域は川や畑等の自然に恵まれており、近隣の方々は古くから居住して農業や酪農を営む家が多い。地域の連携は強く、地区連合の運動会等は戦後から続いているという状況もある。また、卒業生の進路先となる作業所や施設等も比較的多く、本校を会場とした交流行事には300名以上の来校者が集まり、特別支援学校への関心も高い。

こうした地域の特性を活かして、「住みよい安心な地域づくり」に向けた要援護者災害活動対策研究に取り組み、県西地域地震対策強化地区として、乳幼児や高齢者、障害者等、支援を必要とする方々へのボランティア体制や地域協力、協働のあり方を探っていききたい。

なお、本研究はPTAと地域関係者、行政、専門家が連携をとり小委員会等を設置して年間を通した計画を作成すること、講習会等を通して災害に対する知識と共通認識を図った上で、体験型の災害対策活動を実施すること等を研究の柱としたい。

### (3) 取り組みの趣旨

平成19年7月の「中越沖地震」や今年の6月の「岩手・宮城内陸地震」では、多くの人々が避難生活を余儀なくされた。避難者の中には障害児・者や高齢者をはじめとする要援護者の方々が多く、これまでの「阪神・淡路大震災」においても、要援護者の方々に対する災害時の支援のあり方が大きな課題であると指摘されている。

そこで、いざ大地震に遭遇した時に「自分たちに何ができるか」また、「日頃から何を準備しておくといいか」を考えるとともに、特別支援学校である本校の特性を活かし、要援護者への支援にむけてどのような取り組みができるかを、体験型防災訓練全4回の体験を通して探っていききたい。

### (4) 研修会日程と内容

#### 「第1回 地域・PTA・職員合同防災研修会」

日時 平成20年7月31日(木) 9:30～11:00 (90分)

内容 講演 演題「震災に備えて自分で・自宅で・地域で・学校でできること」

講師 平塚市防災危機管理課所員

「**職員の防災訓練シミュレーション（休業日の震災を想定して）**」

日時 平成20年8月7日（木）9：00～11：30

内容 休業日の大規模震災を想定し、学校に集まった職員で対応を考え行動する。

「**第2回 地域・PTA・職員合同防災研修会**」

日時 平成20年8月28日（木） 13：30～15：00（90分）

内容 講演 演題「中越地震に学ぶ～その時、あなたならどうしますか？～」

講師 桑原 昭氏（新潟県川口町立川口小学校元校長）

「**体験型防災訓練～要援護者支援のための防災訓練～**」

日時 平成20年10月3日（金） 9：30～12：15

目的 授業中の大規模震災を想定し、本校の児童生徒及び学校周辺地域の障害児・者及び要援護者に対する様々な支援活動の可能性を探る。

対象 本校児童生徒、保護者、職員、地域の高齢者・障害児者・住民、ボランティア

内容・地震発生で本校を本校児童生徒・地域住民・要援護者の避難場所と想定。

- ・本校児童生徒避難後、本部を設置し職員・ボランティアで活動開始。（8班）
- ・体育館にて避難所設営・仮設トイレ設置・水運搬訓練・防災備蓄食品試食
- ・防災体験コーナー（起震車・足湯・救命救急講習体験・担架搬送体験等）

平成 20 年 7 月 15 日

保護者の皆様

神奈川県立湘南養護学校長

### 体験型防災訓練の実施についてお願い

盛夏の候、地域の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

本校の教育につきまして、日ごろの格別のご支援・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、平成 19 年 7 月の「中越沖地震」や今年 6 月の「岩手・宮城内陸地震」では、多くの人々が避難生活を余儀なくされました。テレビ報道等でご承知かと思いますが、避難者の中には多くの高齢者をはじめとする要援護者（障害のある方や要介護者）の方々がおられ、これまでの「阪神・淡路大震災」においても、要援護者の方々に対する災害時の支援のあり方が大きな課題であると指摘をされています。

そこで、本校では障害児教育の専門性を活かし、大規模震災等の災害時に学校周辺地域の障害児・者及び要援護者に対する様々な支援活動の可能性を探りたいと考えて 10 月に体験型防災訓練を実施することにいたしました。

今年度は、その活動の一端として裏面のような取り組みを予定しています。保護者の皆様との協力関係の強化や協働による地域活動の実践が必須です。皆様にも是非、各研修会や訓練に参加していただき、いざ大地震に遭遇した時に何ができるかを考えていく機会としていただければと思います。ご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

# 体験型防災訓練

～ 要援護者支援のための防災訓練～

## 第1回 地域・PTA・職員合同防災研修会

日時：平成20年7月31日（木） 午前9時30分～11時（90分）

場所：湘南養護学校 食堂

内容：講演・実演「震災に備えて自分で・自宅で・地域で・学校でできること」

講師 平塚市防災危機管理課 職員

## 第2回 職員の防災訓練シミュレーション(休業日の震災を想定して)

日時：平成20年8月7日（木）9：00～11：30

場所：湘南養護学校 食堂

内容：休業日の大規模震災を想定し、学校に集まった職員で対応を考え行動する。

## 第3回 地域・PTA・職員合同防災研修会

日時：平成20年8月28日（木） 午後1時30分～3時（90分）

場所：湘南養護学校 食堂

内容：講演「中越地震に学ぶ～その時、あなたならどうしますか？」

講師 桑原 昭 氏（元 新潟県川口町立川口小学校長）

## 第4回 体験型防災訓練 ～ 要援護者支援のための防災訓練～

日時：平成20年10月3日（金） 午前9時30分～12時15分

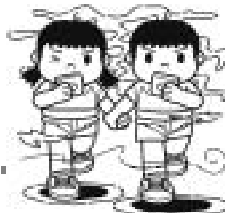
場所：湘南養護学校 体育館等

内容： 授業中の大規模震災を想定し、本校体育館を本校児童生徒・地域住民  
要援護者の避難場所とする。

体育館にて避難所設営・仮設トイレ設置

防災体験コーナー（起震車・足湯・救命救急講習体験・担架搬送体験

防災備蓄食品試食等）



平成20年7月31日

第一回 地域・PTA・職員合同防災研修会 開催要項

県立湘南養護学校

1. 日時 平成20年7月31日(木) 9:30~11:00
2. 目的 いざ大地震に遭遇したときに、自分で・家庭で・地域でまた学校として何ができるか、また、日ごろから何を備えておくか、よいかを考える機会とする。
3. 場所 湘南養護学校 食堂
4. 次第

- 9:30
- ・あいさつ(校長)
  - ・講演、ビデオ視聴  
演題 「地震に備えて自分で・家庭で  
地域で・学校でできること」
  - 講師 平塚市防災危機管理部 防災危機管理課 防災担当  
尾崎 秀明 氏  
高梨 洋 氏
  - ・質疑応答
  - ・お礼の言葉(副校長)
- 11:30
- ・終了
  - ・アンケート記入



テーマ：「震災に備えて自分で・家庭で・地域で・学校でできること」

講師：平塚市防災危機管理課 尾崎 秀明・高梨 洋

時間：9時30分～11時00分 場所：食堂

対象者：地域 2名・PTA 8名・学校職員 56名

内容：

## 1．阪神大震災ビデオ 30分

- ・震度7という数字は、阪神大震災以降に設定された。
- ・被災者救援の体制が整うのに72時間(3日間)はかかる。3日間は自力でしのげるよう日頃からの準備が必要。
- ・震災後、学校に避難する場合は、基本的には危険判定員の判定を受けてから建物に入る。避難場所になっている学校は数少ない判定員は優先して回るが、その他の場所は待ち時間がかかる。そのため状況によっては目視判定のみで建物に避難している現状がある。
- ・阪神大震災では、地域住民が震災に対する知識が不足しており、震災後、火も消さずブレーカーも落とさず避難してしまった。火災拡大の原因に
- ・平塚市は珍しく震災が長い期間起こっていない。しかし、いざ起きる場合は大きいものであると思っていた方がよい。必ず震災はくると思っていて欲しい。是非準備を。東海地震(150年周期)、神奈川県西部地震(70年周期)、東南海地震(20年周期)があるが、現在これらの地震はすでに周期を過ぎている。

## 2．震災にあった時どうするか

身を守る

火を消す...大声を出す。個人で消せるレベルかを判断する。

家族の安否を確認する。...名前を呼び合う。高齢者は笛を枕元に置いておくといよい。

大きい声を出すことが重要。(阪神大震災でリーダーになったのは声の大きな人だった。)

自助...自分で自分を守るのが基本。

家をつぶさない...耐震診断を受ける。平塚市建築指導課へ依頼 費用3万(2万市補助)  
特に57年以前建築物は必要(57年6月建築基準法改訂しこれまでの美観よりも耐震を重視へ。窓枠小さく、柱太く)

家の中の安全地帯...・家具の転倒防止、ガラス飛散防止等を行った安全な部屋を一部屋作る。

・台所の食器棚の工夫、タンスの天井までの空間に空の段ボール箱を入れておくだけでも倒れにくくなる。

・寝室は厚手のカーテンを引いて寝る。

備蓄品...・水 1日一人3リットル×3日分と言われているが、家族分を持ち出そうとすれば重くて運び難い。

まずは気持ちを落ち着かせるための500ミリリットルのペットボトルがあればよい。後は危険がなければ取りに行く。

・食糧 3日分準備と言われているが

まずは火を通さなくてもよいカンパンを一日分準備

- ・その他 3日分の薬、高齢者は入れ歯・老眼鏡、電灯
- ・備えておく場所は、取り出しやすい所に。例 枕元や出口に近い所。

平塚市の震災時の食糧に関するシステム

- ・3日間は自分でを基本としながらも、震災当日は市内に分散備蓄している食糧を拠出。
- ・2日にはパンが避難所に届くシステムとなっている。

家族で防災会議

- ・日頃の備え、災害時の行動(例 高齢者がいれば誰が高齢者を連れて行くか) 避難場所の確認(具体的に集まる場所を確認しておく 例 学校のブランコで落ち合う)

学校に期待すること

- ・必要物品や食糧の備蓄
- ・自校にあった防災計画を作成(誰が何をすることが分かるように)

避難所

- ・トイレが一番困る。特に簡易トイレは痴漢が横行し、女性はトイレに行くのを我慢してしまい体調を崩すことがあった。  
平塚市の避難所の耐震基準はクリアしているのので、建物の倒壊はないとすれば、トイレの水は流れなくとも便袋(20枚 3000円)をトイレに持って入り用を足す。便袋が無い場合は、スーパーの袋やゴミ袋を使用する。
- ・避難所に限らず、避難をしている地域中心に窃盗集団が現れる。

#### アンケート結果

とても思う... 4    思う... 3    少し思う... 2    あまり思わない... 1

- (1) 本日の講演内容を聞かれ、防災意識はこれまで以上に高まりましたか？
- (2) 今回のような防災研修は、今後も必要と思われますか？
- (3) 今後、防災意識を高めるために、研修に取り入れた方がよいと思われる内容はございますか？

地域・学校関係・PTA 43/66

	4	3	2	1
(1)	3 1	1 1	1	0
(2)	2 9	1 3	1	0
(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃防災についてだいたい理解しているつもりでも、忘れていたり、新しい知識が入り、何度もこういう場に参加することが大切だと思った。</li> <li>・養護学校は災害時には障害児者の避難場所として対応をしてくださると聞いたことがある。周囲への気遣いや本人が通い慣れていて安心できる場所としてそうしてもらえると有り難い。</li> <li>・具体的な話が聞けてよかった。今後も、そうした過去の経験からの生の話を聞けると、どのように備えるか考えるのに役立つと思う。</li> <li>・内容だけでなく、しつこいくらいにやらないと意識は育たないと思う。</li> </ul>			

## 第二回 職員の防災訓練シミュレーション 実施要項

1. 日時 平成20年8月7日(木) 9:00~11:30
2. 場所 食堂・その他
3. 目的
  - ・休業日の震災を想定し、学校に集まった職員で対応を考え行動する。
  - ・今回の訓練での気づきを今後の訓練にいかしていく。
4. 職員の動き
  - ・職員は自らとその家族、近隣住民の生命や安全の確保を優先し、その安全を確認した後、可能な手段で学校(または管理職)に連絡後集合する。
  - ・徒歩またはその他の手段で24時間以内に学校に集合可能な想定人数約20~30名
  - ・登校した職員は直ちに校舎の安全を確認する。校舎崩壊等の危険性がある箇所には立ち入り禁止措置をとる。
  - ・対策本部設置(校長室)本部長は登管理職または総括教諭または学年リーダー。
5. 活動の流れ

時間	活 動 内 容
9:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂へ集合(職員会議で配られた資料、筆記用具を持参)</li> <li>・各班ごとに着席</li> <li>・全体の流れ説明</li> </ul> <p>1 <b>話し合い(50分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いは、各班のまとめ役が進行</li> <li>・休業日の震災を想定のもと、各班の仕事内容、とるべき行動、活動の流れ必要なもの等を班毎に考える。</li> <li>・記録用紙へ記入する。</li> </ul>
9:50	<p>2 <b>シミュレーション活動(60分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難者役(胸に避難者役の印をつけておく)14名は避難民の気持ちになって自由に動く。</li> <li>・ボランティア役(胸にボランティア役の印をつけておく)6名は食堂に待機後、渉外班の指示を受け活動する。</li> <li>・スタッフ(教員)役38名中、震災後早めに集合できた3名が校舎の安全確認をする。その後対策本部(本部要員、各班リーダー)を設置。</li> <li>・対策本部からの指示を受け、各班は1で話し合ったことを元にそれぞれ活動</li> </ul>
10:50	<p><b>班ごとに振り返り(30分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員食堂へ集合</li> <li>・1と同様に班に分かれて活動の振り返りを行う。</li> <li>・記録用紙へ記入する。</li> </ul>
11:20	<p><b>講評(10分)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講評(平塚市防災危機管理課職員・高津養護学校今泉総括教諭)</li> </ul>
11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終了 各班ごとに片付け</li> </ul>

## 第二回 職員防災訓練シミュレーション 各班の役割分担

### 本部

本部長（全体総括、状況判断、総指揮）

- ・本部長は対策本部会議を招集、出席は本部要員及び各班リーダー
- ・各班・避難者・ラジオ等の情報を収集、状況判断。 全体指示

副本部長（本部長補佐・地域行政や県教委との情報交換）

- ・被害概要、職員出勤状況など把握。
- ・警察、消防、病院、県教委等への連絡
- ・児童生徒・設備等の被害状況把握、マスコミ等の対応
- ・管理職携帯番号を把握。学校携帯確保し管理。
- ・学校携帯番号を職員用掲示板に明記。
- ・各班リーダーの携帯番号を把握する。
- ・各班リーダーから携帯で現状報告を受け記録する。 本部長へ報告
- ・記録の要点を通報連絡班に指示し掲示板に記入させる。 30分ごとに更新。

【本部からの各班への指示】

- ・渉外班 避難民の集合場所指示。
- ・情報収集班 被害状況把握のため周辺情報収集と報告・近隣パトロールを指示。
- ・搬出班 重要品の搬出指示。（職員室から事務室へ）
- ・掲示伝達班 連絡用掲示板設置指示。全ての情報は掲示板に指示。  
本部用（赤）・職員用（青）・ボランティア用（黄）・避難民用（銀）
- ・安否確認・保護者連絡・引き渡し・探索班 メールによる児童生徒の安否確認を指示。  
特定の学年に限定し試行してもいいか？未確認者は学校の携帯で確認。
- ・救護班 救護体制の確保と避難民の健康状況調査を指示。
- ・避難所設営・要援護者班 設営場所確認、確保・設営備品準備・避難民受入準備・ボランティア対応指示・受入開始
- ・物品補給班 備蓄食糧確保、飲料水確保、防災備品準備
- ・安全点検・防護消火・警備班 校舎内危険箇所・被害箇所再確認・立ち入り禁止区域の明確化・飛散ガラス除去・窓ガラスの補修作業・警備体制

渉外班・情報収集班 ...ボランティア・近隣渉外対応・近隣避難所情報・道路や倒壊建  
・交通機関状況確認・地域情報収集

渉外班

- ・ボランティア受付（名前・連絡先・活動日・得意なこと等・ボランティアは識別のため左肩に黄テープを貼り名前を記入。）
- ・待機場所指示（ボランティア本部設置）
- ・ボランティア用掲示板設置
- ・ボランティアコーディネート

要請 周辺安全確認

要請 通学路危険箇所確認し地図に記入

要請 避難場所を地図上に記載。

- ・避難者を誘導し、避難所設営班に受け渡す。

情報収集班

- ・通学路を中心に周辺安全確認（バス通り・通行不可能な通りを本部長に報告。）
- ・掲示板上の地図に記入。
- ・交通機関情報等
- ・地域情報収集（避難所となる中原小・中学校からの情報収集）
- ・近隣パトロール

**掲示広報班** ...本部確認事項の各班への通報提示、連絡

- ・通報・連絡用掲示板設置。  
本部用（赤）・職員用（青）・ボランティア用（黄）・避難民用（銀）の4カ所
- ・維持管理（不要な連絡の撤去など）記載用文具類確保（掲示用紙・筆記用具・テープ・タグ等）
- ・記入表現方法も色別や文字の大きさなど工夫する。
- ・各班の担当者が掲示版を見ているかチェック。  
必要ならボランティア要請。

**重要品搬出班** ... 重要非常持ち出し品の安全な場所への移動と確保

- ・重要品（名簿・連絡網・その他重要搬出品を職員室から事務室へ）を本部長から管理職に連絡を入れ確認）搬出後、本部長に報告。
- ・搬出後に渉外班・情報班へ合流。

**避難所設営・要援護者支援班** ...設営場所確認、確保・設営備品準備・避難民受入準備・受入開始・要支援者支援

- ・解放場所の確認（体育館・会議室）
- ・避難者の誘導（立入禁止区域の明確化）
- ・避難者の右肩の銀テープを貼り記名
- ・要援護者に対してはさらに赤テープを貼る。要援護者を別場所（会議室）へ誘導
- ・避難所設営（ブルーシートで仕切り区枠・ウレタンマット（学校にあるマットを使用）  
・防災毛布・プラスチックパネル・ガムテープ・名前記入用紙・マジック）
- ・誘導後直ちに緊急食料準備・湯沸しを開始。
- ・防災物品の供給は物品補給班と協力する。

**物品補充班** ...備蓄食糧確保、飲料水確保、防災備品準備

- ・文房具類、掲示用消耗品類、色布テープ、画びょう、シール等、備蓄食品、防災備品等、 応急復旧用具類、一輪車、リヤカー、担架、車いす、ブルーシート、プラスチックパネル、ガムテープ、ウレタンシート等所在確認
- ・各班の要請に従い物品供給
- ・補給品や工具、備品等の持ち出し品と持ち出し者のリスト作成  
ボランティア要請

**安否確認・保護者連絡・引き渡し・校内探索班**

- ・連絡・通信手段の確保・児童生徒居住地避難所情報の収集、児童生徒安否確認
- ・メールによる児童生徒の安否確認を管理職に要請（安否確認・保護者連絡班長 教頭）
- ・返信の確認
- ・未返信者と未メール利用者に対し電話により安否の確認（今回は 学部のみ）
- ・引き渡し
- ・不明児童生徒の探索

**救護班**

救護班（救急救護物品の確保、応急救護活動、重傷者への対応確認）

- ・避難所に出向き、避難者の健康チェック

**安全点検・防護消火・警備班**

安全点検（校舎内危険箇所・被害箇所再確認・立ち入り禁止区域の明確化）

- ・校内危険箇所立ち入り禁止措置 本部報告・掲示
- ・通路、出入り口等への倒壊物除去・飛散ガラス除去・陥没箇所確認補修・余震対応  
防護消火（ガス安全確認・火元確認・周辺からの延焼防止措置・余震対応）  
校内の警備

## 第二回 職員 防災訓練シミュレーション 報告

### 実際の流れ

- 9:00 各班で話し合い：50分
- ・校長挨拶、講師紹介
  - ・話し合いの進め方説明
  - ・リーダー中心に検討、記録、班によっては確認のため目的地に移動
- 9:50 シミュレーション開始：60分
- ・今回の震災の設定を説明
- 9:55
- ・本部長3名移動、校舎内の大まかな危険箇所の把握
- 10:05
- ・校長室安全と確認し、本部を校長室に設置、被害状況の説明、避難場所の選定
  - ・参集職員へ拡声器や掲示で集まる場所・待機場所を指示
  - ・平行して、参集した職員のチェック後、高2 - 1で待機する旨を伝える。
- 10:13
- ・参集職員チェック終了
- 10:15
- ・リーダー決めをし、各班のリーダー招集
  - ・リーダーへ現状説明
    - 危険箇所 避難場所 待機場所 各班で使用する場所の指示（安否確認：事務室 物品補充：図書室） 各班の役割分担を説明
  - ・トランシーバーの使用者決定（本部、救護、避難所、安全点検）
  - ・副校長の携帯番号の周知 ・リーダーの携帯番号の把握
- 10:25
- ・避難者とボランティアが学校へ
  - ・各班それぞれの活動を開始
- 10:50 班ごとに振り返り：30分
- ・リーダー中心に振り返り、記入
- 11:20 講評、質問
- ・高津養護学校地域支援担当 ・平塚市防災危機管理課防災担当
  - ・終わりの挨拶（副校長）
- 11:35 ・片づけ

### 講評

平塚市防災危機管理課防災担当 高津養護学校地域支援担当

避難所の運営は避難者でするとよい。避難者の中で窓口役を作り、その窓口が意見や要望を集約し、本部へ連絡に来るシステムにするとよい。

職員は、子どもたちの精神的な安定を図るためにも、一日も早く学校復興するために計画を始める。

学校の全てを避難場所とすることはない。復興のために計画的に場を設定。

震災時助けてくれるのは地域の住民。そのためには日頃から子どもの顔を地域の人に知ってもらう事は大切。保護者・子の地域デビューが必要。

平塚市防災要援護者の登録制度はない。

震度の強さを被害状況を具体的に伝えることで職員にイメージを持たせる。

例 震度6強 震度6強で、机が倒れたり、ロッカーの物が全て飛び出ている。

平成20年 8 月28日

### 第三回 地域・PTA・職員合同防災研修会 開催要項

県立湘南養護学校

1. 日時 平成20年8月28日(木) 13:30～15:00
2. 目的 大規模震災がいつ何時、自分たちの身に起きても不思議ではない。中越地震の実体験の話と映像で地震の実際をイメージしながら、実際にその場で何ができて、何が課題になるか等を具体的に考えるとともに、防災教育の視点を学ぶ機会とする。
3. 場所 湘南養護学校 食堂
4. 次第

- |       |  |
|-------|--|
| 13:30 | ・あいさつ(校長)  |
|       | ・講演、ビデオ視聴  |
|       | 演題 「中越地震に学ぶ<br>～その時、あなたならどうしますか?～」                         |
|       | 講師 長岡市教育委員会「フレンドリールーム」主任指導員<br>桑原 昭 氏<br>(元 新潟県川口町立川口小学校長) |
|       | ・質疑応答  |
|       | ・お礼の言葉(副校長)  |
| 15:00 | ・終了  |
|       | ・アンケート記入   |



テーマ：「中越地震に学ぶ～その時、あなたならどうしますか？～」

講師：桑原 昭 氏

時間：13：30～15：00

【内容】

本日のキーワード

～平常時でできない事は、災害時には何もできない～

(1) ビデオ視聴

- ・川口市の紹介と震災時の学校や住民の様子
- ・震災時、一般人が次々と学校へ入ってきた。
- ・体育館の蛍光灯が落ちてきた。
- ・その時はただ怖いだけ。机の下にも入れなかった。
- ・教師は、子どもたちは地震に負けるほど弱くない。
- ・その後の子どもたちの心のケアが大事。自閉の特性がある子どもは、その後も揺れている旗を見て恐がった。
- ・要援護者はホイッスルがあると、倒壊した建物の下からも助けを求めることができる。
- ・仮設トイレは震災4日後に設置されたが、すぐに汚物で溢れてしまった。要援護者の使用のことは考えられていないので、トイレを別に作るとよい。

(2) 命を守るために学校がすべき事

一日頃より実施

- ・学校の耐震調査...体育館・グラウンドなど
- ・転倒防止... 83%が圧死・怪我の原因も50%が転倒によるもの
- ・毎月1回安全点検(複数の目で)、学期1回は全職員で
- ・災害ダイヤルの訓練 ・サッシは強化ガラス

震災後

- ・職員がグループになって、戸別訪問による安否確認・情報収集。ピアニカ、縄跳び、ドッジボール等持ち出かけ、子どもに元気と勇気を与える。
- ・緊急組織を組む。
- ・学校再開をなるべく早く行う。子どもの心のケアのためにも一日も早い学校復興が必要。
  1. 専門家の安全点検
  2. 安全ゾーンの確認
  3. 水、トイレの確保
  4. ゴミの処理
  5. 通学路 集団登下校
  6. 温かく接する...テントへ帰らなければならぬ子どもの気持ちを考える。「仮設住宅」という言葉は使用しない。

復興に向けて

- ・施設の安全確認と確保...落下・転倒防止(ガラスにガムテープをバツェンに貼る)
- ・1ヶ月間は危機状態である。
- ・校長のリーダーシップが重要...備品・教科書等行政に素早く申請
- ・ボランティアの支え...片づけ、清掃、整備、一人ひとりの子どもにあわせて子どもと遊ぶ、子どもへの本の読み聞かせ、登下校の付き添い、パトロール、救援物資の仕分け等

### ( 3 ) 心のケア

- ・ 県より派遣の教員やカウンセラーを活用
- ・ PTSDになるのは当たり前
- ・ 力のある子程心のケアは必要
- ・ 子どもが表す状態

例 自閉の子どもはパニックや他害をしてしまう

母親から離れない 不登校 他人の嫌がることをして人の気を引く

風と音に敏感になる 集団生活を拒む

我が儘、甘えが1年以上続くことがある

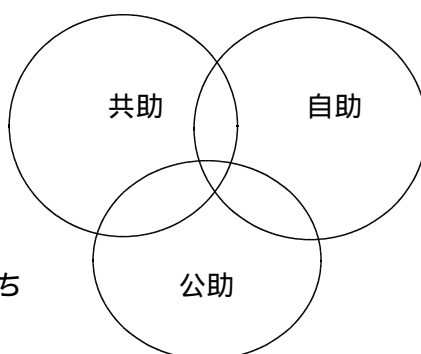
- ・ 安心感を与える
  - 子どもを一人にしない
  - 大声で怒鳴らない
  - 教員が落ち着く
- ・ P T Aでサポート事業を立ち上げる

### ( 4 ) 2ヶ月の避難所生活

- ・ 拾った薪で暖をとった。
- ・ 3日目頃から援助物資が配給された。
- ・ 水、トイレ、洗濯、風呂が断たれた
- ・ ガソリン不足
- ・ テントは雨音がうるさい
- ・ 仮設住宅に入っている子や保護者の心のケアが必要

### ( 5 ) 避難所運営のポイント

- ・ 施設管理者、ボランティア、避難者の三者が介入しすぎず、それぞれの役割を持つ。
- ・ ボランティアは「してあげる」という関係にはならない。



公助は限界がある。自分たちの町は自分たちで守る。

### ( 6 ) 防災教の必要性

- ・ 危険を正しく理解する
- ・ 備えをする。
- ・ 年3回の避難訓練...いざという時に役立つ訓練をする。
- ・ 訓練は緊張感を持って行う。

### 第三回 地域・PTA・職員合同防災研修会 アンケート結果

回収 P・一般 15  
職員 20

#### (1) 講演の内容について、気づきとなった点

	P・一般	職員	計
とてもあった・・・・・・・・	12	11	23
あった・・・・・・・・・・	3	8	11
すこしあった・・・・・・・・	0	1	1
あまりなかった・・・・・・	0	0	0

#### (2) どのような内容に？

##### P・一般

- ・防災に本当に必要なことは何かを改めて教わりました。
- ・身の回りをよく見て危険な箇所をチェックしたいと思いました。
- ・実際に大地震を経験されているということで、お話をぜひ伺いたいと思いました。また、その時、自分に何ができるか考えた。
- ・地震は本当に起こる心積もりでいること。起こった時に何が一番必要か。
- ・大きな被害にあったら、どんな人でもショックを受ける。
- ・実際に体験された方のお話を聞き、地震の怖さを改めて知らされた。
- ・避難用具より、まず、命を守ることをする。家の中の家具など見直しをする。
- ・現実空想を越えるということ。学校再開を最優先すること。
- ・子供への対応の仕方や教職員としての心得。
- ・家庭で出来ること（逃げる空間を作るなど etc...）また、日常からかけ離れたことをするのではなく、その中で出来ることを考えていくこと。
- ・課題が明確になってきました。直接体験を聞く、大切さ再認識。
- ・家に空間（シェルター）を確保すること。避難所生活の難しさ。
- ・トイレなど身の周りのものを使って作ればいい。
- ・準備をすること、経験すること。
- ・施設の再チェック（安全確保）。
- ・実体験の大切さ。
- ・防災訓練が絶対に必要だということ。

##### 職員

- ・行政の対応の件、日頃の心構え、用意。避難場所は、避難所にならない。シナリオのない訓練。
- ・震災の非常時の様子、生の声で教えてもらいました。
- ・学校職員としてやれることがあると思った。物資だけではなく、心温まる接し方を。
- ・人のつながりの必要性、トイレ等の工夫の仕方。被災者が被害者になる構図。

## 第四回 体験型防災訓練 実施要項

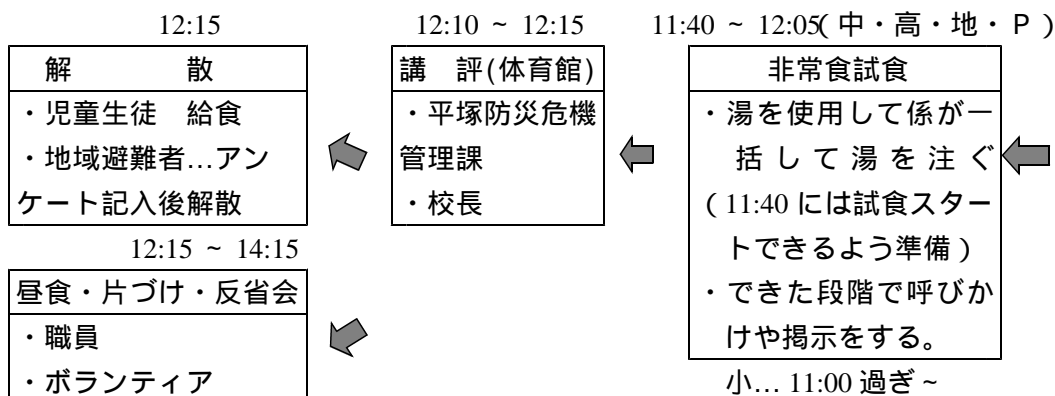
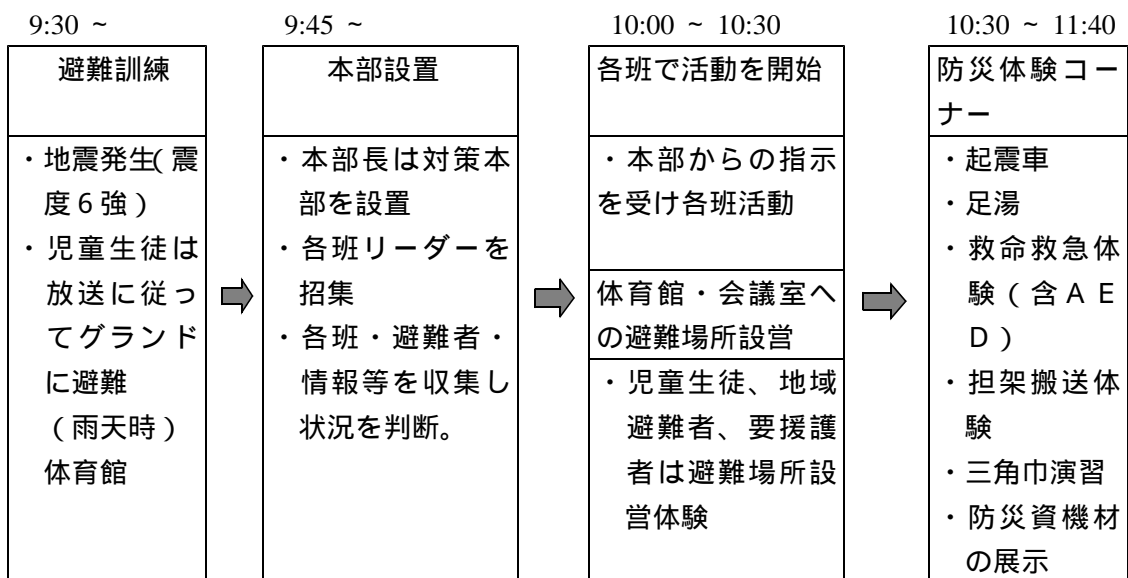
～ 要援護者支援のための防災訓練 ～

H20/9/17

生活・安全係

1. 日時 平成20年10月3日(金) 9:30～12:15
2. 目的 授業中の大規模震災の災害時を想定し、本校の児童生徒及び学校周辺地域の障害児・者及び要援護者に対する様々な支援活動の可能性を探るため、地域の人々と協力しながら、学校としてできることを考えていく。
3. 対象 本校児童生徒・保護者・地域の高齢者や障害児者・地域住民・職員
4. 当日の日程・内容
  - 9:30～ 児童生徒避難訓練(運動場)
  - 9:45～ 本部設置(グラウンド)
  - 9:55～ 安全な場所を確認後、児童生徒は体育館に移動
  - 10:00～ 各班で活動開始  
児童生徒避難所設営体験  
ボランティア・一般避難者受付開始
  - 10:30～ 防災体験コーナー(70分)  
起震車 / 足湯 / 救命救急体験(含むAED)  
担架搬送体験 / 三角巾 / 防災資機材の展示
  - 11:40～ 防災備蓄食品試食  
(小学部:11時過ぎから試食)
  - 12:05～ 試食終了・容器等片付け
  - 12:10～ 講評 平塚市防災危機管理課職員 (体育館)  
挨拶 校長
  - 12:15 児童生徒...防災版給食  
(小・中学部:食堂 高等部:教室他)  
地域住民...アンケート記入後、解散  
ボランティア...防災備蓄食品で昼食
  - 12:45～ 担当職員・ボランティアで、それぞれの班の片づけ
  - 13:15～ 担当職員・ボランティア反省会
  - 14:15 終了

全体の動き



各学部の動き

小学部

- 10:30 ~ 地域住民と全学年起震車体験(ロータリー) + 防災資機材の展示見学
- 11:00 過ぎ ~ 試食: 乾パン・五目ご飯・けんちん汁(体育館)
- 12:05 ~ 試食用具片付け 12:15 ~ 給食(食堂)

中学部

- 10:30 ~ 試食: 乾パン(体育館)
- 11:00 過ぎ ~ 全学年起震車体験(ロータリー) + 防災資機材の展示見学
- 11:40 ~ 試食: 五目ご飯・けんちん汁(体育館)
- 12:05 ~ 試食用具片付け 12:15 ~ 給食(食堂)

高等部

- 10:30 ~ 担架搬送体験 + 三角巾 + 防災資機材の展示見学(各学年ごとに体験) 時間があれば高1は起震車体験
- 11:40 ~ 試食: 五目ご飯・けんちん汁(体育館)
- 12:05 ~ 試食用具片付け
- 12:15 ~ 給食

当日の各班の動き 9:45～10:30（本部からの指示後、実質約30分の活動時間）

班名	具体的な動き
本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練で児童生徒・職員の安否確認をする。</li> <li>・安全点検班のリーダーとメンバーを指名し、まず校内安全確認、トイレ確認を指示。</li> <li>・本部設置し、各班リーダー、メンバーを指名。</li> <li>・各班の役割分担確認</li> <li>・副校長、各班リーダーの携帯電話の確認</li> <li>・安全点検班からの報告を受けて、校内の危険箇所・安全場所のアナウンスを全体にする。</li> </ul>
渉外班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随時避者・ボランティア・保護者を受け付け 色分けテープ(職員もテープを貼る)</li> <li>・避難場所へ誘導(ボランティア活用)</li> </ul>
学校近隣安全確認班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>今回は活動せず</u></li> </ul>
掲示広報班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用可能なトイレ、使用方法の掲示</li> <li>・校内・外の危険箇所を地図で掲示</li> <li>・本部からの指示内容を掲示</li> </ul>
重要物品搬出班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要物品の搬出</li> <li>・その後は渉外班へ合流</li> </ul>
避難所設営・要支援者支援班	<p>児童生徒と地域避難民はまず体育館へ避難し、その後要援護者は会議室へ移動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難配置図の掲示</li> <li>・避難物品の配布(プラスチック板・ガムテープ・クラスに数本の水・試食用小容器・紙コップ・スプーン)</li> <li>・小・中学部・必要に応じて高等部にカンパン配布</li> <li>・部屋名・パテーション毎のクラス名・名前の記入指示。</li> </ul> <p>備蓄食品用の湯沸かし アルファ米五目ご飯+けんちん汁は事前に配布せずに湯を入れてから配布 本部 掲示広報班で掲示</p> <p>足湯の準備(今回はプールの湯をホースで引く)</p>
安否確認・保護者引渡し・校内探索	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>今回は活動せず</u></li> </ul>
救護班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怪我人の処置・児童生徒、避難者の体調の聞き取り 要援護者把握し第二避難場所(会議室)へ誘導</li> <li>・救護所の設置</li> </ul>
安全点検・防護消火班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内安全箇所・危険箇所確認・使用可能トイレ確認 使用方法の掲示+便袋設置</li> <li>・立ち入り禁止箇所の明確化 コーン+テープ+掲示</li> </ul>
物品補充班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>今回は各班とも事前に初期対応物品を準備(事務室倉庫)</u>。その他必要な物品を補充</li> </ul>

防災体験コーナー10:30～11:45

内 容	外部担当	本校担当	場 所		参 加 者				
			晴	雨	小	中	高	P	地
起震車	危機管理課 2人	1人	ロータリー	ロータリー					
足湯		管理職 + ボランティア	校庭 プール側	プール 室内					
救命救急講習体験	消防救急課	1人	軽作業 室	軽作業 室					
担架搬送体験	平塚パワーズ	1人	中学部 ホール	中学部 ホール					
三角巾	平塚パワーズ	1人	中庭	プレ ールーム					
防災資機材展示	危機管理課	1人	生徒昇 降口	生徒昇 降口					

学年リーダー・学部長は各学部の動きを掌握

地域・PTA自家用車の誘導...南門からサイクリングロードへ誘導

保護者へは 10:00 開始とお知らせで配布

防災体験コーナーの詳細

- ・起震車...昇降含め2分(次のグループは準備しておく)
- ・救命救急講習体験...人形1体 + A E D
- ・担架搬送体験(15分～20分)...毛布での簡易担架作成 6人(持つ人) + 1人(担架に乗る人)
- ・三角巾(20分)...三角巾の使い方を体験
- ・防災資機材展示...簡易トイレ・段ボールの間仕切り・便袋・非常袋の中身

## 第四回 体験型防災訓練 報告 体験型防災訓練の様子～避難訓練～

9時30分大地震が発生しました。  
慌てず、静かにグラウンドに避難します。



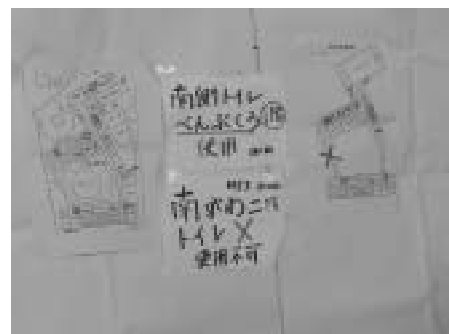
体育館の安全が確認され、小学部から順番に外階段を使って体育館へ移動します。



体育館では自分たちが過ごす空間をプラスチック版で間仕切りしました。各グループで大きさや組み立て方を工夫していました。



初めての体験でしたが、狭い空間で寝ころんだり音楽を聴いたりして過ごしました。



連絡は掲示版で！

掲示・広報班が本部から伝達された情報を掲示版を使用して体育館の避難者へ伝えます。拡声器は聞こえにくく、今後工夫が必要です。



非常食の試食をしました。お湯でアルファ米(五目ご飯)と豚汁の炊き出しをしました。  
結構おいしいと好評でした。



各学部は順番にダンボールで作ったお盆等でクラスの人数分の試食を運びます。

### 体験型防災訓練の様子～防災体験コーナー～

10:30から防災体験コーナーのスタートです。

6コーナーを設け、児童生徒・地域の方・PTAがそれぞれの場所へ移動して体験をしました。

平塚市防災危機管理課・平塚市消防救急課・平塚パワーズの女性ボランティアの皆様のご協力を得ながら、参加者に様々な体験をしてもらいました。

#### 起震車体験



小学部の児童や地域・PTAの方が中心に震度7の揺れを体感しました。

#### 足湯体験



運動場に三方をブルーシートで覆い、ほどよい空間の中で足湯を行いました。心地よさに思わず会話も弾みます。

### 救命救急体験



救急隊の方から心配蘇生法とAEDの使い方についての講習を受け、その後実際に人形を使って演習を行いました。

### 担架搬送体験



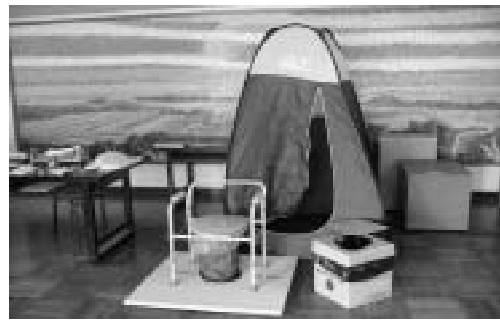
毛布で簡易担架を作り、6人でけが人を運ぶ体験をしました。

### 三角巾体験



三角巾を使ってけがをした箇所を保護したり、縛ったりしました。

### 防災資機材の展示見学



簡易トイレ・ダンボールの間仕切り・便袋・非常時持ち出し物品等を見学しました。

## 第四回 体験型防災訓練 アンケート

地域・PTA

【今回のような体験型の防災訓練は、今後も必要と思われますか？ 11人】

とても思う... 10人 思う... 1人 少し思う... 0人 あまり思わない... 0人

【今回の防災訓練について、ご感想がありましたらご記入下さい。】

- ・良い体験ができた。狭いパーテーションの中で子ども達はよく待つことができていた。
- ・もう少し時間があれば全ての体験コーナーに参加することができた。
- ・救命救急は1度でなく、1年に数回体験することができれば自信となる。
- ・体育館の床が硬かったり、プライバシーの問題など実際に避難生活を送ることになったら、色々な問題が出てくると思った。
- ・毛布を使っただけの担架はびっくりだが、あのような丈夫な棒が用意してあればのこと。今回の訓練で何が必要で、何があるかを見直し準備が必要だと思った。
- ・間仕切りのパーテーションはすぐに壊れてしまい工夫が必要と感じた。
- ・初めての体験型の訓練だった。繰り返しの訓練が必要だと思う。

PTAボランティア

5名のPTAボランティアを依頼

- ・足湯の係 ... 3名
- ・炊き出しの係... 2名

【足湯の振り返り】

- ・三面目隠しはよかった。
- ・一つのたらいに二人までは入れる。
- ・お湯もすぐ汚れるので、1回ずつお湯を捨てたのでやや腰が痛かった。  
捨てる際、排水溝が近くになかったので大変だった。
- ・浮いたゴミをすくうザルのようなものがあるとよい。
- ・温泉の素のようなものがあるとちょっと癒されるかもしれない。
- ・子供達も何人が来たが、とてもよい表情であった。実際の地震時は子ども達も足湯があった方がよいのでは。
- ・「気持ちいい」と好評だった。

【炊き出しの振り返り】

- ・風が強く火があおられたので、アルミガードのような防風対策が必要である。
- ・やってみて慌てている自分分かりよい経験ができた。
- ・携帯電話の使用方法を事前に確認しておく必要がある。
- ・やかんは8リットルより大きいのがあればもっとよい。
- ・米を蒸らすのは時間がかかるので早めに開始した方がよかった。
- ・高等部は生徒が試食を取りに来たが、生徒数・教員数を把握しておらず聞きに戻った経緯がある。取りに来る位の生徒は、日頃より人数を把握しておくことも必要である。

# 体験型防災訓練

## ～ 要援護者支援のための防災訓練 ～

県立湘南養護学校

1. 日時 平成20年10月3日(金) 10:00～12:15
2. 目的 授業中の大規模震災等の災害時を想定し、本校の児童生徒及び学校周辺地域の障害児・者及び要援護者に対する様々な支援活動の可能性を探るため、地域の人々と協力しながら、学校としてできることを考えていきます。

### 3. 本日の流れ

本校の児童生徒は9:30から避難訓練を実施し、グラウンドに避難をしています。

(雨天の場合は体育館)

安全な避難場所を確認後、児童生徒は体育館に移動

10:00

・一般避難者・ボランティア受付開始  
・児童生徒とともに体育館に移動  
・避難所における問仕切り体験...避難所でのプライベートスペースを作り、その空間の居心地を体験してみてください。

10:30

防災体験コーナー...興味のあるコーナーで体験してみてください。  
起震車...震度7の揺れの動きを体感してください。  
足湯...震災時に、足湯は癒しの場として好評でした。  
救命救急体験(含むAED)...人形をモデルに、心肺蘇生法やAEDの体験をしてください。  
担架搬送体験...7人一組で、毛布で簡易担架を作り運ぶ体験をします。  
三角巾体験...三角巾を使って怪我の応急処置を体験します。  
防災資機材の展示見学...非常持ち出し物品や便袋等を展示します。

11:40

・防災備蓄食品試食

12:05～ 試食終了・容器等片づけ

12:10～ 講評 平塚市防災危機管理課職員 (体育館)  
挨拶 校長

12:15

地域の方...アンケート記入後、解散

# 本校児童生徒及び同窓生の余暇活動と 地域人材資源のボランティア養成との コラボレーション

山梨県立ふじざくら支援学校PTA

# はじめに

山梨県立ふじざくら支援学校  
PTA会長 掘内 詠子

この度の研究助成事業に参加させていただきました。心から感謝申し上げます。研究は、子どもたちの将来を見据えた思いや願いを、実際の活動に結びつけるための重要な役割を果たしました。また、地域交流に向けても更に大きな広がりを見せ、子どもたちのより充実した生活のあり方を真剣に考えるべく「PTA組織のステップ・アップ！」にもつながりました。

テーマに沿った地域ボランティア参加の余暇活動は、たくさんの良き関わりが持てること、学校・家族以外の、社会との結びつきができること等、本当に大事な過程結び実行することができます。そして何よりも、その大切なコミュニケーションが。地域で生かされることを心から願っています。

今回の研究は、PTAとして、たくさんのことを学ばせていただきました。今後もPTA活動の一つ一つが、将来にわたり、子どもたちの実りある生活につながることを信じ、より良いものにしていきたいと思っています。

## 1 学校概要

本校は、平成8年度県内唯一の知肢併置校ふじざくら養護学校として設立されました。

それまで、子どもたちは、スクールバスや送迎による長時間の登下校や、親元を離れ、甲府や大月などの寄宿舍のある養護学校に通うことを余儀なくされていました。

希望が叶い、ノーマライゼーションの理念に基づいた地域社会を目指した、「富士ふれあいの村構想」から出来上がった学校です。校舎は、山梨赤十字病院、障害者福祉の拠点としてのふれあいセンター及び身体障害者療護施設はまなし寮と隣接しています。



雄大な富士に抱かれ、松林が広がり、近くには富士五湖があるといった、自然環境にも大変恵まれた学校です。

児童生徒数は、開校当初およそ60名、平成16年度には100名を超えました。本年度小学部39名、中学部25名、高等部38名の102名が在籍しています。知的障害63名、肢体不自由単一5名、重複障害34名です。

寄宿舍はなく、自主通学・保護者による送迎、またはスクールバス4便が児童生徒の送迎を行っています。最長時間の乗車でも1時間弱で登下校が可能です。

本県では、盲学校、ろう学校は山梨県内に1校ずつあるのみです。富士北麓地域の感覚障害のある子どもたちは、月に数回、長い時間をかけて通っていました。そこで平成16年度に県立盲学校・聾学校と連携し、本校でサテライト教室を開始しました。月1回のサテライト教室で盲学校・聾学校の先生方に授業を参観、アドバイスをいただいています。



また、すべての子どもたちが、健康に学習できる環境を整えることも基本と考え、平成19年度から、医療的ケアを開始しました。今年度1名の看護師が増員され、養護教諭2名、看護師2名の体制です。日々の健康管理は、もちろん、特に食堂では、一緒に食事を摂り、摂食指導や食事時の発作に対応したり、経管栄養を摂っている子どもたちも食堂で注入を行うことができます。

## 2 調査研究助成事業を申請するまでの経緯

本校の保護者・児童生徒・学生ボランティアが中心となって活動してきました「サタデークラブ」と本校PTA専門部であるボランティア部の活動を融合させ、より児童生徒や保護者のニーズにあった活動へと発展させていきたい。そのためにこの新たな試みについて全知P連より支援を受け、研究調査を行っていくことを考えました。

### 本校児童生徒及び同窓生の余暇活動

平成12年に「生徒の放課後や余暇活動を充実させる」という目的で、サタデークラブを発足。参加者は本校高等部生徒と同窓生の賛同者。本校の参加生徒の保護者を中心に、地元の大学や本校教員の協力のもと運営してきました。しかし、参加者が減少し、存続の危機に陥っていました。このままだと今まで培った地元の大学などの地域人材資源、ボランティアを失ってしまいます。

### 地域人材資源のボランティア養成

平成16年に「本地域に障害児者に対する理解が深いボランティアを育成し、本校児童生徒が、この地域で生き生きと暮らしていける環境作りをする。」という目的で、本校PTAの専門部に「ボランティア部」を発足し、順調に推進してきました。

(コラボレーション!!)

### 【平成20年度の取り組み】

専門部「余暇活動部」を設立。サタデークラブを本校PTAの活動として位置づけ、全校児童生徒に開放する。活動には、「ボランティア部」がボランティア養成を行った地域の方々にも参加してもらう。この「余暇活動部」と「ボランティア部」の2つの活動が、有意義に且つ円滑に運営していけるように研究を行いたい。

### (1) テーマ

「本校児童生徒及び同窓生の余暇活動と地域人材資源のボランティア養成とのコラボレーション」

### (2) 目的

本校児童生徒の休日の余暇活動をよりいっそう充実させる。

地域とのネットワーク作りの一環として、高校生、大学生ボランティア、児童生徒の居住地のボランティアを育成する。

「サタデークラブ」の活動内容や方法を検討し、参加者全員が楽しい時間を共有できる場を目指す。

調査研究助成事業推進委員会を結成し、本校の児童生徒・卒業生にかかわる余暇活動の拡充を図る

### (3) 活動概要

#### 余暇活動部

ア) 児童生徒・卒業生・ボランティア(保護者・教員も含む)による余暇の活動「サタデークラブ」の運営

イ) 「サタデークラブ」の活動方法・内容の検討(地域の施設利用など)、先進的活動の研究ボランティア部

ア) ボランティア養成講座の運営

イ) 地域のボランティアの拡大と地域とのネットワーク作り

### (4) 調査研究助成事業推進委員会 構成員

	氏名	役職・所属
委員長	堀内 詠子	ふじざくら支援学校PTA会長
アドバイザー	高山 美和	" 前年度PTA会長



アドバイザー	萩原 公子	ふじざくら支援学校校長
委員	渡辺 公男	" 教頭
委員	元木 哲哉	" 教頭
委員	小佐野 ふさ子	" P T A 副会長
委員	友谷 栄子	" P T A 副会長
委員	滝口 淑恵	" P T A 副会長
委員	吉田 佐知子	" P T A 副会長・ボランティア部部长
委員	佐々木 美佐子	" P T A 余暇活動部部长
委員	山下 由美子	" P T A 広報部部长
委員	宮下 盛江	" P T A 進路対策研修部部长
委員	鈴木 修司	" 事務長
委員	小山 ひとみ	" 総務部主任
委員	深澤 陽子	" 総務部副主任
委員	塩島 剛	" 総務部部員
委員	吉田 和佳	" 総務部部員
委員	宮下 知美	" 総務部部員
委員	重森 千秋	" 総務部部員
委員	酒井 あゆみ	" 総務部部員

(5) 活動計画

- 4月・・・推進委員会（研究助成事業推進委員会の結成，活動方法・内容の検討）
- 6月・・・推進委員会（係り分担確認）
- 8月・・・余暇活動の先進地域の見学（東京 あきる野学園など），学習会
- 10月・・・推進委員会（報告書作成）
- 11月・・・推進委員会（報告書作成）
- 12月・・・推進委員会（調査研究事業まとめ，報告書の完成・提出）

(6) 準備日程

- 4月22日まで・・・活動内容詳細・係り分担の検討  
在校生・卒業生への通知作成
- 4月22日・・・新旧理事会 推進委員会  
目的・内容・係り等の検討確認
- 4月30日・・・ふじざくらP T A総会
- 5月1日・・・在校生・卒業生への通知配布
- 5月10日・・・「サタデークラブ」大学生ボランティアとの顔合わせ・打ち合わせ会  
年間活動計画の検討
- 5月18日・・・在校生・卒業生の参加申し込み締め切り  
参加者名簿作成
- 6月18日・・・P T A作業 推進委員会 各係り分担ごと話し合い  
以下各係りごとの活動を行っていく

(7) 活動内容と係り分担

活動内容	保護者担当	教員担当
サタデークラブの運営 日程・内容の決定・参加者の把握	柳田 ふみ代 (山際 八代美) (余暇活動部副部長) 小佐野 ふさ子 (高等部副会長)	深澤陽 酒井
地域ボランティア(講師)の開拓， 連絡調整	吉田 佐知子 (ボランティア部部长) 滝口 淑恵	吉田 重森

	( 中学部副会長 )	
先進的活動の研究・見学会の実施	宮下 盛江 ( 進路対策研修部部長 )	塩島 宮下
報告書作成	友谷 栄子 ( 女性部長 )	渡辺教頭 小山
記録	山下 由美子 ( 広報部部長 ) ・ 部員	吉田
会計		小山

### 3 活動報告

#### ( 1 ) ボランティア養成講座について

平成 17 年にボランティア講習会が始まりました。1 年目のボランティア講習会では、本校保護者にもまだボランティアということが理解しにくかったこともあり、元武蔵野東技能高等専修学校校長、長内博雄先生を講師迎え「ボランティアとは？」という演題で講義をしていただきました。この講義が後のふじざくら支援学校 P T A のボランティア活動を方向付けるきっかけになりました。

2 年目以降は、本校 P T A 役員と本校職員が講師になり、地域の大学生や高校生を中心にボランティア養成講座という形で障害のある子どもたちとのコミュニケーションの取り方などについての講義を行いました。併せて障害のある子どもたちとのふれあいの場をもうけ、体験会というかたちで交流活動も行いました。

体験会では、保護者が組織している団体や地域で活動している団体をお願いし、ボランティア体験を行いました。

活動としては、ヨットの試乗会や餅つき大会、調理活動など様々な活動のボランティアとして体験してもらいました。

## ボランティア養成講座



本校職員による講義



今年度はボランティア講習会を4回実施しました。知的障害，肢体不自由障害，感覚障害の他に発達障害についても講義の内容に加え，よりボランティアさんが必要としている情報を講座の内容として加えました。

ボランティアをはじめとする方に対して，「ボランティアとは何か」ということで，ボランティアを行うための心構えや障害者が利用するための施設などの見学を行い，ボランティアに何度か参加している方には，「自閉的な傾向が強い子どもとの触れ合い方」「パニックになったときの対応の仕方」など実際に役立つ内容の講義などを行いました。

## (2) サタデークラブについて

### 運営について

サタデークラブは，平成20年度から新たに設けられた本校PTA専門部の一つである余暇活動部が中心になって運営しています。今までの高等部生徒，卒業生と大学生ボランティア，教員，保護者に加え，新たに小学部・中学部の児童生徒が参加することとなりました。在校生にはPTA余暇活動部よりサタデークラブの趣旨を説明するプリントを配布し，申し込みをしてもらいました。

今年度の参加者は下の図のとおりです。

PTA専門部のボランティア部が主催しているボランティア養成講座を受けた方も子どもたちと実際に活動する体験会として参加をします。地元昭和大学・健康科学大学・一般のボランティアの参加，児童生徒，さらに同窓生もが，地域の人と楽しみ，交流できる画期的な活動に生まれ変わりました。

### <参加者の内訳>

参加者	人数
本校小学部	13名
中学部	10名
高等部	11名
卒業生	13名
昭和大学ボランティア	8名
健康科学大学ボランティア	25名
ボランティア養成講座からのボランティア	8名

## 平成20年度サタデークラブ構成

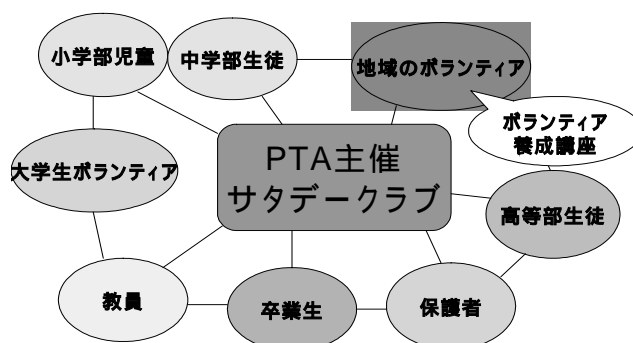


図 サタデークラブ参加者



### 具体的な活動

ア．5月17日PTA・大学ボランティアリーダーとの顔合わせ会

PTA会長，余暇活動部部长，卒業生保護者のリーダーと総務部の教員，各大学ボランティアリーダー，大学職員が集まり，始めの顔合わせ会を行いました。今年度からPTA組織で運営を行っていくことや地域への発信をさらに力を入れていきたいことなど方針の説明などを行い，年間の活動日程の調整を行いました。

#### イ．第1回（6月14日）

参加者全員が集まる最初の会です。小学部から卒業生までの参加者とその保護者，学生ボランティア，教員ボランティアなど121名が集まりました。今回は，総務部の教員が中心になって自己紹介ゲームやリズムダンスなどで盛り上がりました。余暇活動部担当の保護者は，受付，名札の配布，麦茶の準備など経験のある卒業生保護者にうかがいながら，やり方を確認して行いました。



#### ウ．第2回（7月5日）

今年度サタデークラブでは，地域のボランティアグループを招いての活動を行いました。今まではボランティアとして協力してくれる人を，学校関係者のつながりで探すことが多かったのですが，今まで支援学校を知らなかった団体や，障害者と関わることが少なかった地域の人たちに積極的に声を掛けていって輪を広げていこうと考え取り組みました。

今回は，地域の図書館を拠点として，保育園や小学校で絵本の読み聞かせや人形劇をしているグループを招きました。子ども達の大好きなブラックパネルシアターや大型絵本の読み聞かせなど静かな環境でゆったりと鑑賞することができ，大変好評でした。

また，このボランティアグループからも「一度，ふじざくら支援学校に来たかった。これを機会にもっと呼んで欲しい」とのお話も頂きました。こういった地域の利用していくことによって，子ども達にとっても地域社会にとっても意味のある活動になってくると考えます。

#### 地域ボランティア（講師）の開拓



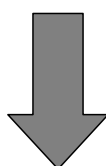
運動グループでは，アリゴリズム体操をして体をほぐしました。リズムに乗りながら，座ったり立ったり，横を向いたり大忙し。笑いの中で楽しく運動ができました。

仲間集めゲームでは，小学部の生徒から学生のボランティアさんが一緒になって，みんなを呼んで輪を作り，交流を深めることができました。

アルゴリズム体操の様子



仲間集めゲームの様子



最後は、各グループが集まって、健康科学大学の学生たちが準備してくれた巨大パズルを組み立てました。学生さんたちの企画で全員が楽しむことができ、一体感を得られるものとなりました。

< 全員での活動 >



< 健康科学大学にて >

エ．第3回（9月27日）



1, 2回は、本校での活動でしたが、第3回は、健康科学大学で活動を行いました。健康科学大学の学生が全体の企画運営を行い、全員で同じ活動となりました。吹奏楽部の演奏を聴き、アルゴリズム体操を行った後は、いくつかのグループでペットボトルロケットを作成し、大学の中庭で打ち上げました。小さな兄弟姉妹たちも大喜びの企画でした。

## ママサタデーについて



子どもたちが楽しんでいる間、保護者は別室に集まり、自由に座談会を行いました。日常、不安に思っていることも、先輩のお母さん方の話を聞いて安心をしたり、また、卒業生のお母さん方からは、卒業後の今の状況を話していただきました。その中で「決められた期間の学校生活の中で何をしなければいけないか」等の話をしていただいたりと、話が尽きませんでした。

## サポートカードについて

人員が増えるにあたり、障害の実態・その対応を知らせるサポートカードは、重要な役割を果たしています。

活動前に、ボランティアの方にサポートカードを見てもらい、担当児童生徒、卒業生などの対応について知ってもらう機会を設けます。発作のある方やコミュニケーションが難しい方については教員から具体的な対応を伝えることもあります。

サポートカードについては、その場で確認していただいて、ボランティアの方が持ち帰るようなことがないように管理は厳重に行っています。



## 先進的活動の研究・見学会の実施

本年度は、サタデークラブの充実に向け、先進的な余暇活動を行っている、東京都立あきるの学園PTAの「あきるのクラブ」に着目しました。理由としては、本校と同様に知肢併置校ということや同時期に開校された学校であることから本校の実態と近いのではないかと考えたからです。

勉強会を設け、8月23日には視察に行きました。

視察をしてまず驚いたことは、「あきるのクラブ」を運営している保護者の行動力でした。身近な知り合いや地域の施設などに積極的に呼びかけ、講師や必要な施設を借りることを自分たちで行なっていました。活動内容も多岐に渡り、インラインスケート、太鼓、手工芸、スノーズレンと児童・生徒のニーズに合わせた取り組みが行なわれていました。



< 副校長先生の話聞いています >



< インラインスケートの様子 >

(保護者アンケートより)

スヌーズレンの様子



ヘルパーさんをうまく使って参加しているなと思いました。移動支援っていうのでしょうか？日中一時支援くらいしか使ったことがないのでよくわかりませんが、働いている方のうちとかいいんじゃないでしょうか？みんなが参加しやすいように工夫することも大事だと思いました。

「思いを実現する力」みたいなことを強く感じました。また、志の高さに、無駄を生じさせない合理性や柔軟性、教師も保護者も本当に知識が豊かであると同時にそれぞれの熱い思いが伝わってきました。

「本気で思うこと願うこと」が今を拓いていくと改めて感じました。皆が一步前に進む姿勢、高い意識を持つことが大事だと思いました。

とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございます。又、このような研修がありましたら、参加させていただきたいと感じています。

私がいいなと思ったところは地域に協力者を求めることや地区で活動することなどです。ふじざくらも広域なので、学校から遠い地域はその地区で活動した方が参加しやすいのではないのでしょうか？グループ分けもいいと思いました。大人数だとちょっと参加しにくかったりすると思うので。親が興味をもてるような内容、親が参加できるプログラムなどいいと思いました。あきるのクラブでは、最初に日程と内容が書いてあるので、参加しやすいと思います。予定も立てやすいと思います。

活動内容の充実（予算等の問題もあるのでできることから・・・）。地域の施設利用。企業、行政との連携。関わる全ての人達との輪。

地域差もあるので、そのまま移行というのは難しい気がしますが賛助、協賛して下さる企業誘致という意味ではとても可能性があるのではと思いました。でも、ふじざくらのサタデーも頑張っているんで、みんなの気を引きつける技を生かせたら、参考にしたらいいかと思います。

年間の計画の中に、大きな行事、バーベキューや屋外お出かけ活動などみんなでやることを大きな柱にして、その中にスポーツや太鼓、映画鑑賞など細かに取り入れてはどうでしょうか？あきるのにはない、大学生ボランティアとの連携、関係（ふじざくらの宝です）を大切に、まず、本校の子ども達の為に保護者がしたいことを意見を出し合って進めていくことがよいと思います。本校が今まで積み上げた活動はけっして他の地域の活動に引けを取らないと考えています。

宣伝ポスター・広報誌・NHK・CATV等メディアについて

## 地元メディアの活用

地元CATVで  
活動日程などをお知らせ



地域の広報誌に  
情報を掲載



ボランティア養成講座は宣伝ポスター・広報誌・NHK・CATV等メディアなども利用しながら募集を呼びかけ、より大勢の方に参加していただけるように努めています。

# ポスター



<本校の生徒が描いた絵をポスターにしました。>

## サタデークラブの感想

(保護者)

・いろいろな方とのふれあいがあり良かったです。話しかけていただいたときは嬉しかったです。2回目の時の人形劇を見たのと、体育館で体を使った巨大パズルづくりの2部構成が良かったです。

・我が家の息子は、毎回大喜びで参加しています。日常生活の中では健常者の方々（特に若い方！！）との関わりが少ないので、学生ボランティアさんとのふれあいはとても楽しいようです。また、対象者が拡大され卒業生の参加があり、懐かしい面々に会えることにも喜んでいきます。私自身もいろいろなお母様と話に花が咲き、楽しく貴重な一時を過ごしています。

学生ボランティアさんの熱心な取り組みには感心！！です。この関係がずっと続きますように願っています。このサタデークラブの活動は今後もぜひ続けてほしいです。

・活動範囲の狭くなりがち子どもたちが学生さんと過ごすことができ、週末の余暇を楽しめています。サタデークラブが子どもたちにとって有意義な時間になるように望んでいるのはもちろんですが、ボランティアとして参加してくださるの方々にとっても有意義な時間になればと思います。

・日ごろ、接する機会のない大学生のお兄さん、お姉さんとの活動はとても楽しかったようです。毎回みんなで楽しめる企画で、サタデークラブに行くのが待ち遠しいようです。先日のペットボトルロケットはみんなで力を合わせて作って飛ばす活動がとても楽しかったようでした。いつもは言葉の少ない子どもが「サタデークラブ行く？」と言うほど楽しみにしています。

・サタデークラブの話地元学校の特殊学級へ通学している方に話したら行ってみたいとの声がありました。受け入れを拡大する事により人脈も広がって行くのではと思いました。



・ボランティア講習会やサタデークラブで活動していますが、根気よく宣伝して外部の方をより多く招き入れ開けた学校にしていきたいです。グループごとの協力体制ができればすごい力になるのではとったりしています。

(生徒)

・私が一番楽しかったことは、ロケット作りです。ロケットに『ポニョ』の絵を描きました。周りの人たちが「すごいね!」とほめてくれました。最後にロケットを飛ばしましたが、時間がなくて自分が絵を描いたロケットは飛ばせませんでした。  
・じゃんけん列車、アルゴリズム体操、演奏など、大学生の皆さんと一緒に活動できて良かったです。

(昭和大学医学部1年生)

・「わくわくした、疲れたけど楽しかった。」数時間の活動を終えて抱くのは、毎回こんな感想です。支援学校でのボランティアということで、何をすればいいか、と最初こそ不安になりました。不安を解消できたのは、ふじざくらの生徒さんたちのおかげです。全力で飛び込んでくれるので、こちらも全身で向かい合わなければならない、一緒にゲームに夢中になってしまいました。活動は毎回、様々な内容が盛り込まれていて、とても楽しめましたし、新しい発見がありました。少ない活動の中で、充実した時間をすごせたと感じています。

## 4 まとめ

### (1) 子どもたちにとって

行動範囲が狭くなりがちな障害をもつ子どもたちにとって、サタデークラブでたくさんの刺激を受けたり、日常では、なかなか体験できないことをすることは、それぞれの自立に向けての貴重なステップなと考えます。

さらに、ボランティア養成講座を通して、地域に障害者支援者が増えることは、その理解が地域に浸透し、定着し、やはり障害者の自立や他者との共存につながっていくと思われれます。

### (2) 保護者にとって

保護者の親睦を目的とした「ママサタデー」では、問題を自分ひとりで抱え込まずに、同じ悩みを持つ仲間と話すことで心が軽くなります。イメージしづらい卒業後のことも、同窓生保護者の体験談で、不安は少しずつでも解消されます。今、「何をすべきか」「これから何を考えるべきか」に気づくこともできます。

### (3) 終わりに

存続が危ぶまれていた「サタデークラブ」を新たにPTAの専門部として「余暇活動部」を立ち上げて運営し、参加者の枠を拡げたり、活動内容の工夫を図ってきました。また、その活動に「ボランティア養成講座」で育成したボランティアの皆さんに係わっていただくという今回のテーマも軌道に乗ってきました。これも全知Pの調査研究助成事業の指定を受けたことが大きな弾みとなったことは言うまでもありません。助成をいただく中で、先進的な活動を展開しているグループの視察や研究会を重ねることもできました。参加している保護者の意識も変わってきてつあります。これまでの成果と反省を生かし、今後さらに「サタデークラブ」を充実させ、それが子どもの自立、ひいてはノーマライゼーションの地域社会につながっていければと願っています。

県立ふじざくら支援学校PTA主催

## ボランティア養成講座

& サタデークラブ

のお知らせ

障害のある子どもたちは、生きる力を育むために、支援学校や地域の学校でたくさんの方を勉強します。しかし、その子どもたちはみんな、地域で生活し地域社会の色々な関係の中で、学校では学べないようなたくさんの方を自然に身につけているのです。地域の方々とのかかわりにより、生きる力をつけるチャンスを与えていただいているのです。

自分には何が出来るだろうか、などと難しく悩まずに、まずは彼らに目を向け、声に耳を傾けそして声をかけ友だちになってください。彼らが地域の中で生きていくには、何よりも人と人とのふれあいが必要なのです。そして、きっと、彼らとの交流の中でみなさんご自身が障害のある子どもたちから学び、幸せをもらうこともあるはずですよ。本当に心を開き、積極的に関係を築いていかなければならないのは、子どもたち本人や家族なのかも知れませんが、ぜひ、地域のみなさんにも一緒に「心のネットワーク」を結んでいただきたいと思います。

## ボランティア養成講座

### 地域に住む障害のある子どもたちのことをもっとよく知り、楽しく活動しよう！

今回ふじざくら支援学校PTAでは、地域のボランティアリーダーとなる人材の育成のために、4回のボランティア養成講座を行なうことになりました。次の日程で各講習会を行なう予定になっています。体験を交えたわかりやすい講習会ですのでぜひご参加ください。

各講習会とも、実施時間は、午前9時半から正午までの予定です。

**5月31日(土)**

内容：ふじざくら支援学校見学・ボランティア活動とは？

**8月7日(木)**

内容：知的障害児童生徒との関わり方

( \* 自閉傾向が強い児童生徒 \* パニックになったときの対応 )

**10月4日(土)**

内容：発達障害・感覚障害のある児童生徒の関わり方

**11月29日(土)**

内容：車椅子を利用している児童生徒との関わり方

**お申し込み・連絡先** : TELまたはFAXでお申し込み下さい。

山梨県立ふじざくら支援学校 TEL (0555) 72-5161

FAX (0555) 72-5164

「ボランティア養成講座・サタデークラブ」担当 : 塩島 剛

参加希望票

平成 20 年度のサタデークラブに参加を希望します

( ) 学部 ( ) 年

児童生徒氏名 ( )

保護者氏名 ( ) 印)

連絡先 ( )

緊急連絡先 ( )

<活動希望> 希望する活動内容の下に参加される方の名前を記入してください。  
一緒に参加を希望する兄弟姉妹がいる場合も名前を記入してください。

身体を動かすスポーツやレクリエーション ゲームを主に行うグループ	ゆったりと音楽鑑賞やふれあい遊び歌・ 散歩等を主に行うグループ

参加を希望される方は、必要事項を記入して5月16日(金)までに  
この用紙を学級担任に提出してください。

平成20年5月1日

P T A 会 員 各 位  
卒 業 生 各 位

山 梨 県 立 ふ じ ざ くら 支 援 学 校  
P T A 会 長 堀 内 詠 子  
校 長 萩 原 公 子

### サタデークラブへのお誘いとお協力をお願い

新緑の候、皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。  
さて、本校 P T A では、今まで高等部の生徒・保護者が中心となって実施してきた「サタデークラブ」を P T A 活動の一つと位置づけ、小学部、中学部の児童生徒も参加できるようにし、本校の全児童生徒の休日の余暇活動の充実を図りたいと考えました。参加者としては、本校の児童生徒・保護者・教員・卒業生の他、ボランティアとして本校のボランティア講座を受講した地域の方々（一般・中学生・高校生・大学生）、健康科学大学・昭和大学のボランティアサークルの方々などに呼びかけていきたいと思っております。  
参加者全員が楽しみ、良い時間を共有することを目指したいと考えています。大勢の皆様の参加と保護者の方々のご協力をお願いいたします。

#### 5 目 的

- (1) 児童・生徒・卒業生の余暇活動の充実を目指す。
- (2) スポーツや音楽鑑賞などの活動を通して心身をリフレッシュする。
- (3) 地域の方々や、同世代の学生と交流する。
- (4) 保護者・ボランティアの方々が日ごろの運動不足を解消し、普段経験することの少ない文化活動を体験する機会を設ける。
- (5) 親子で時間を共有し、様々な人と交流することによって「心の栄養」を得る。

#### 6 日 時

- (1) 各月土曜日を基本とする（5月から翌年3月までの中で適宜設定する。）
- (2) 午後2時から3時30分まで
- (3) 学校行事や学生ボランティアの都合を考慮し、変更することもある。

#### 3 場 所 ふじざくら支援学校・健康科学大学・昭和大学など

#### 4 参加者

- (1) 本校児童生徒・・・参加希望者
- (2) 本校卒業生・・・参加希望者
- (3) 大学生ボランティア・・・健康科学大・昭和大学のボランティアサークル
- (4) 一般ボランティア・・・本校で行うボランティア養成講座の受講生
  - ・原則として児童生徒・卒業生と保護者は一緒に参加してください。（参加希望者には詳しい参加方法の説明を行います）
  - ・兄弟（姉妹）の参加も可能です。常に参加される予定の兄弟は、参加申込書にご記入ください。
  - ・本人・兄弟の活動についての希望をうかがいます。（それぞれ好きな活動を選んでください）
  - ・保護者は基本的に本校児童生徒・卒業生と同じ活動に参加してください。

#### 5 内 容

今年度は、本校全体の児童生徒に呼びかけるため、様々な実態の子どもたちが一緒に活動することが予想される。そこで、内容を「身体を動かすスポーツやレクリエーションゲームを主に行うグループ」「ゆったりと音楽鑑賞やふれあい遊び歌・散歩等を主に行うグループ」に分けて活動したらどうかと考えている。  
・卒業生は年会費として一人1000円いただきます。（在校生は必要ありません）  
・年会費の中から行事保険に加入します。  
・活動場所までの送迎は保護者の責任のもと、行ってください。

山梨県立ふじざくら支援学校  
総務部  
余暇活動部担当 深澤 陽子  
T E L 0 5 5 5 - 7 2 - 5 1 6 1  
F A X 0 5 5 5 - 7 2 - 5 1 6 4

ふじざくら支援学校 P T A 主催

「サタデークラブ」について

今年度の「サタデークラブ」

サタデークラブに申し込み頂き、ありがとうございました。今年度は、新たに P T A 活動として新しい専門部である余暇活動部が運営をしていくこととなりました。今までの活動に加え、地域の方々とのつながりをより深められるよう、講師を招いての活動も予定しています。

また、小学部・中学部もメンバーに加え、高等部生徒と卒業生、保護者、教員、昭和大学・健康科学大学の学生ボランティア、ボランティア養成講座を受講した方などの大勢の皆さんと一緒に、スポーツ活動や音楽鑑賞など様々な活動を行っていきたく考えています。

活動は、「身体を動かすスポーツやレクレーションゲームを主に行うグループ」「ゆったりと音楽鑑賞やふれあい遊び歌・散歩等を主に行うグループ」の二つに分けて行いたいと思います。参加したいグループの希望は、後日改めて伺います。

平成 2 0 年度サタデークラブ（ボランティア体験会）の予定

実地日時	活動内容（予定）	会 場
6月14日（土） 14:00～15:30	始めの会 自己紹介・レクレーションゲーム	ふじざくら支援学校
7月5日（土） 14:00～15:30	グループ活動	ふじざくら支援学校
9月27日（土） 14:00～15:30	グループ活動	健康科学大学
11月15日（土） 1 4:00～15:30	グループ活動 ボランティアさん感謝の会	ふじざくら支援学校
12月13日（土） 1 4:00～15:30	グループ活動	昭和大学
2月28日（土） 1 4:00～15:30	終わりの会	ふじざくら支援学校

日程については、学校行事やボランティアの方々のご都合を考慮して変更することもあります。活動内容の詳細について知りたい場合やご質問などありましたら、担当者までご連絡ください。

< 毎回の活動への出席について >

毎回の活動への出席を把握したいと考え、お願いしたところ、近い学年の方に連絡役としてご協力いただけることになりました。また、卒業生の連絡調整役として渡邊愛さんの保護者の渡邊浩子さんが引き受けてくださいました。お手数ですが、活動日の 2 日前までに連絡役の方に出欠をお知らせください。

山口大輔さん・中村章則さん  
(H10・13年卒業生)

廣瀬啓志さん

渡邊よしみさん・郷田佳祐さん  
(H14・15年卒業生)

橋本雄一さん

渡邊愛さん  
(浩子さん)

遠山はる香さん・白井佑弥さん  
高山智史さん・渡邊真一さん・  
白須普啓さん  
(H19年度卒業生)

連絡先  
山梨県立ふじざくら支援学校  
「サタデークラブ」担当 深澤 陽子  
TEL (0555) 72-5161  
FAX (0555) 72-5164

資料 5

ふじざくら支援学校 P T A 主催  
「サタデークラブ」へのお誘い（最新版）

「サタデークラブ」とは？！

「サタデークラブ」は、ふじざくら支援学校の高等部生徒、卒業生や保護者、大学生ボランティアの皆さんが中心となって始まった土曜日の活動です。本気で汗を流すバスケットやしっぽとりゲームなど、みんなが楽しむことができ、運動不足の解消にもつながる内容で実施してきました。

今年度は、新たに小学部・中学部もメンバーに加え、高等部生徒と卒業生、保護者、教員、昭和大学・健康科学大学の学生ボランティア等の皆さんと一緒に、スポーツ活動や音楽鑑賞など様々な活動を行っていきたくて考えています。

「サタデークラブ」の最大の目標は、みんなで楽しむ！有意義な時間を共有する！ことです。「自分に何ができるんだろう・・・」「何かしてあげなければ・・・」と考えず、純粋に「楽しむ」ために参加してみてください。また、今年度はサタデークラブの活動がボランティア体験会をかねていますので、養成講座を受講された方は、ぜひご参加ください！

活動は、「身体を動かすスポーツやレクレーションゲームを主に行うグループ」「ゆったりと音楽鑑賞やふれあい遊び歌・散歩等を主に行うグループ」の二つに分けて行いたいと思います。参加したいグループの希望は、後日改めて伺います。

平成 20 年度サタデークラブ（ボランティア体験会）の予定  
（最初に配布したものと変更になりました）

実地日時	活動内容（予定）	会 場
6月14日（土） 14:00～15:30	始めの会 自己紹介・レクレーションゲーム	ふじざくら支援学校
7月 5日（土） 14:00～15:30	グループ活動	ふじざくら支援学校
9月27日（土） 14:00～15:30	グループ活動	健康科学大学
11月15日（土） 1 4:00～15:30	グループ活動 ボランティアさん感謝の会	ふじざくら支援学校
12月13日（土） 1 4:00～15:30	グループ活動	昭和大学
2月28日（土） 1 4:00～15:30	終わりの会	ふじざくら支援学校

日程については、学校行事やボランティアの方々のご都合を考慮して変更することもあります。

活動内容の詳細や日程、参加申し込みの方法などは、ボランティア養成講座の中で改めて案内を配付させて頂く予定です。児童生徒と触れ合う活動が多いので、麻疹などの予防接種を済ませ抗体を持っていらっしゃる健康な方の参加を原則とさせていただきます。

当日ご参加いただける方については保険に加入します。料金は本校 P T A がご負担します。

活動内容の詳細について知りたい場合やご質問などありましたら、担当者までご連絡ください。

連絡先

山梨県立ふじざくら支援学校 TEL (0555) 72-5161  
FAX (0555) 72-5164  
「サタデークラブ」担当 深澤 陽子

## 平成 20 年度 サタデークラブ &lt;サポートカード&gt;

(ふりがな) お子さんの氏名		男 ・ 女		愛称 ( )		
所属・年齢	卒業生	山梨県立ふじざくら支援学校 T・C・S		小・中・高		
		( )年卒 ( )歳				
	在校生	山梨県立ふじざくら支援学校 T・C・S		小・中・高		
		( )年				
兄弟 姉妹他	学校名 ( )					
	学年 ( ) 学級 ( )				( )歳	
保護者氏名			緊急連絡先		(続柄: )	
お子さんの 様子について	排泄	【介助】不要・要 ( ) 時間ごと・オムツ使用 ( )				
		サイン 有り・無し ( )				
	移動	【介助】不要・要 ( )				
		車いす 自走・手押し ( )				
	好きなこと					
	嫌いなこと・本人がしてほしくないこと			気分転換の方法		
	コミュニケーション サイン			よくする会話		
	日常の特徴	常同行動	無・有	様子： 対応等：		
		自傷行為	無・有	様子： 対応等：		
		他害	無・有	様子： 対応等：		
危険認知		可・不可	様子： 対応等：			
集団への 参加状況		集団は苦手・小集団なら大丈夫 何かあれば ( )				
性格		人見知り・人なつっこい・慣れれば平気 何かあれば ( )				
着替え	【介助】不要・要 (具体的に )					
飲食	特に配慮が必要なこと・アレルギー ( )					
発作	無・有	いつ ( )	どんな時に ( )			
		どんな様子 ( )				
		対応の仕方 ( )				
その他	上記以外に何かあれば、お書きください。(こだわりのあるもの、関わりのポイント、遊びの終わりや行動を制する時の伝え方など)					

ボランティアの方が分かるようにできるだけ、詳しく書いてください。

## &lt;サポートカードについて&gt;

- ・ボランティアの方たちが児童生徒、卒業生、兄弟姉妹の実態を知り、関わる事ができるようできるだけ詳しく、サポートカードに記入していただきたいと思ひます。
- ・個人的な情報を書いていただきますので、サタデークラブ以外で利用することはありません。1年間の活動が終了したら、破棄します。
- ・余暇活動部で一冊のファイルに閉じて保管します。活動前に、その回のサタデークラブと一緒に活動する方に見ていただき、再度回収します。(常に特定のボランティアの方が一緒に活動するとは限りません。)
- ・児童生徒、卒業生と一緒に兄弟姉妹が参加する場合、兄弟の分のサポートカードも別に作成して提出してください。
- ・提出・・・在校生(またその兄弟)については、担任を通して6月20日(金)までをお願いします。卒業生については、連絡役の方と調整して連絡します。

# 親の会事業への参加をとおしての ボランティア養成の試み

愛知県立三好養護学校 親の会



# 目 次

1	はじめに	
2	親の会活動の概要	1
	(1) 事業部	
	(2) 研修部	
	(3) 広報部	
	(4) 準備部	
3	平成19年度までのボランティアを活用した取組	3
	(1) 親子交流会	
	(2) 地域への啓発活動としての親子交流会とボランティア養成	
	(3) ボランティアを養成するための今後の課題	
4	平成20年度のボランティア養成事業の取組	5
	(1) 校内整備作業でのボランティア養成	
	(2) 夏の学校とサマースクールでのボランティア養成	
	(3) 「じゃんぴんぐフェスタ2008」でのボランティア養成	
5	平成20年度の新しい取組「避難所体験&秋まつり」	10
	(1) 取組の経緯	
	(2) ボランティアの募集	
	(3) ボランティア講座の実施とボランティア活動の内容	
	(4) 難所体験の活動の内容	
	(5) 秋祭りの実施	
	(6) 取組の成果と今後の課題	
6	ボランティア養成事業に取り組んで	13
	巻末資料	
	1の1, 1の2	15
	2の1, 2の2	17
	3の1, 3の2	19
	4の1, 4の2	21
	5の1, 5の2	23
	6	25
	7	26

# 親の会事業への参加をととしてのボランティア養成の試み

愛知県立三好養護学校親の会

## 1 はじめに

本校は自動車の街豊田市の西隣、愛知県西加茂郡三好町に設置されています。(写真-1, 2) 三好町の人口は59,621人(平成20年9月1日現在)で、全国一人口の多い町です。昔から農業の盛んな地域で、愛知用水が導水されるまでは溜池が作られ利用されてきました。今でもその名残が至る所に見受けられ、溜池を整備しカヌー競技が盛んに行われています。また、豊田市の西隣という地の利を生かして、トヨタ自動車の工場が三工場(三好、明知、下山)あります。最近の名古屋市や豊田市のベッドタウンとして、豊かな自然に囲まれた閑静な住宅街があちこちに建ち始めています。

本校は、昭和44年4月愛知県心身障害者コロニー条例により愛知県立春日台養護学校三好分校が設置され、昭和50年4月1日県下で二番目の知的障害養護学校として開校しました。

昭和54年の養護学校教育義務制施行とともに、児童生徒数も増加し、校舎は増築に増築を重ね、校内は階段も多く、迷路のようになっています。平成20年4月1日現在の児童生徒数等は下表(表-1)のようで、10年前に比べて約44%増加し、過大校となっています。

表-1 児童生徒数・学級数・教員数の比較

	平成11年(4月1日現在)			平成20年(4月1日現在)		
	児童生徒数	学級数	教員数	児童生徒数	学級数	教員数
小学部	83人	20学級	31人	135人	33学級	60人
中学部	68人	15学級	25人	96人	22学級	41人
高等部	128人	17学級	42人	195人	29学級	67人
合計	279人	52学級	98人	426人	84学級	168人

(注)教員数には校長、教頭、介護員は含めない



写真-1 学校の風景



写真-2 学校の風景

## 2 親の会活動の概要

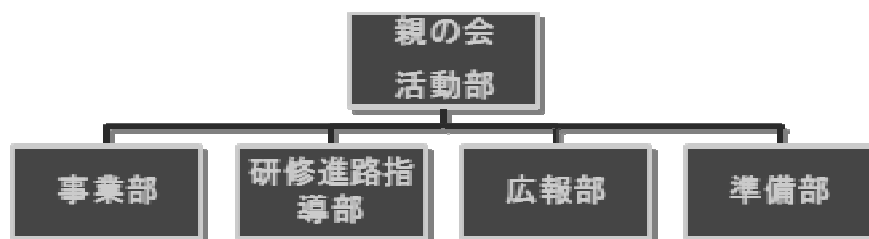
愛知県立三好養護学校親の会は昭和56年5月に発足し、今年で28年目を迎えます。

親の会の目的は「学校の教育方針に積極的に協力し、子どもの育成と福祉の増進に寄与する」と会則にあります。更に、目的を達成するために「学校と家庭・施設との連携を図る。会員の研修及び親睦を図る。学校の行事及び教育環境の整備充実に協力する。その他、本会の目的

の達成に必要な事項」を事業として行うことを掲げています。「みんなで子どもたちと共に」を合言葉に、歴代会長始め役員、会員の皆さんの理解と協力により、活動内容も充実し、安定した活動を続けています。

役員は、会長(1)、副会長(3)、書記(2)、会計(3)、監査(2)、相談役(1)、理事(23)の合計 35名で構成し、毎月 1 回役員会を開催しています。

親の会の活動部には昨年まで、事業部、研修進路指導部、広報部の三つの部が置かれていましたが、平成 20 年度から過大化した学校を解消するために、新しい知的障害特別支援学校設置のお願いをしていくことを目的とする「準備部」を置きました。



親の会の活動部の活動内容は以下のとおりです。

#### (1) 事業部

##### ア 学校行事への協力

運動会、知的障害養護学校愛びっく体育大会、はあとまつり(文化祭)、卒業式への協力を行っています。

##### イ バザー(年 2 回、4 月親の会総会、10 月親子交流会)

バザーは卒業生が働いている作業所などに依頼して出店していただき、弁当、パン、お好み焼き、飲み物等のほかに縫製製品等の販売をしています。当日は卒業生に販売していただくようにして、卒業生との交流の場となっています。昼食の時間は保護者同士の交流の場となります。

##### ウ 除草・美化作業(年 2 回、5 月、11 月)

学校の運動会、はあとまつり(文化祭)に合わせて、除草・美化活動を行っています。

##### エ 校内整備作業

平成 18 年度からはじめた事業で、夏休みに入った最初の土・日曜日に保護者と先生方とで学校内の整備を行います。校舎内の壁面のペンキ塗りや雑巾掛け、窓ガラス拭きなどを行っています。お父さん方の特技を生かし、樹木の剪定、椅子や机の修理なども行います。

##### オ 親子交流会「じゃんぴんぐフェスタ」(年 1 回、10 月)(詳細は後述)

#### (2) 研修部

##### ア 研修・見学会の開催

###### (ア) 研修見学会

毎年 1 ~ 2 回開催しています。

主に障害者福祉施設を見学しています。

###### (イ) 療育懇談会

毎年 1 回開催しています。

###### (ロ) 進路指導講話

毎年 1 回開催しています。

##### イ グループ活動(5 グループ)



写真-3 グループ活動

- (ア) 和太鼓(年 5 回)
- (イ) アレンジフラワー(年 3 回)(写真-3)
- (ウ) ボウリング(年 5 回) (写真-4)
- (エ) ボディストレッチ(年 3 回)
- (オ) 和・話・輪(年 3 回)

「和・話・輪」は平成 19 年度からの新しいグループ活動です。毎回テーマを決めて気軽におしゃべりをする会です。時には卒業生の保護者を招いて卒業後のお話を聞くこともあります。一番の人気の毎回多くの希望者があります。



写真-4 グループ活動

#### ウ 「読み聞かせの会」

本好きの児童生徒の育成を願って始めた会です。学校とタイアップして年間約 40 回開催しています。小学部の児童のみならず中学部・高等部の生徒も毎回楽しみにしています。なお、年度初めには講師を招いて「読み聞かせ講習会」を開催しています。

### (3) 広報部

#### ア 「親の会通信」の発行

平成 18 年度からはじめましたが、役員会の会議記録を中心に掲載しています。年度末のアンケートでも「親の会の活動が分かりやすく、より身近になった」と好評でした。

#### イ 広報「かきつばた」発行(年 3 回)

#### ウ 文集「みよしの」発行(年 1 回)

### (4) 準備部

学校の過大化を解消するために、愛知県や隣接する豊田市へ新しい知的障害特別支援学校の設置をお願いしていく様々な活動を行います。(平成 20 年度から)

## 3 平成 19 年度までのボランティアを活用した取組

平成 16 年度からボランティアの協力を得て、事業部が中心となって「じゃんびんぐフェスタ」を開催しています。平成 13 年度から始まった「おやじの会」の親子交流会の試みが、「じゃんびんぐフェスタ」へと発展して、今では、マンツーマンボランティアを取り込んだ親の会の一大事業になっています。

### (1) 親子交流会

#### ア 平成 13 年度

親の会会長が男性であったため「おやじの会」を発足し親子交流会を始めました。7 家庭の親子が参加しました。

#### イ 平成 14・15 年度

前年度の試みをさらに発展させ、三好町の施設で、ディキャンプとして焼きそばパーティーを行いました。平成 15 年度は、70 家庭が参加しました。

#### ウ 平成 16 年度

この年度から「じゃんびんぐフェスタ」と命名し、本校の運動場でミニ運動会(競技と昼食)を行いました。50 家庭が参加し、ボランティアは 8 名参加しました。

「じゃんびんぐフェスタ」の名称は、児童生徒が普段どおりに元気に飛び回れるようにという願いと、児童生徒が楽しくピョンピョンとジャンプする様子からネーミングしました。

#### エ 平成 17 年度

本校の運動場でレクリエーション(競技と昼食)を行いました。40 家庭が参加し、ボランティアは 12 名が参加しました。

オ 平成 18 年度

この年に初めてマンツーマンボランティアを導入しました。本校の運動場で児童生徒はボランティアとスタンプラリーゲームをしました。体育館で昼食(カレーライス)と一緒に食べ、アトラクションを楽しみました。また、模擬店も 2 店を開き、児童生徒も買い物を楽しみました。

その間、保護者は教室で先輩保護者との懇話会に参加しました。先輩保護者のお話は何よりの励ましとなり、元気と活力をいただきました。77 家庭の参加があり、マンツーマンボランティア、アトラクションボランティア、アドバイザーを合わせボランティアは合計 110 名、総勢 380 名が参加して会を支えてくださいました。

カ 平成 19 年度

本校の体育館が耐震化工事により使用できなくなり、小学部と交流のある三好町立南部小学校をお借りして実施しました。児童生徒はマンツーマンボランティアと体育館で、プロレス観戦やアトラクション、お笑いライブを楽しみました。

中庭では、保護者、兄弟姉妹を対象とし、「体験談を聞いてパワーアップしよう」と銘打ち、障がい児・者の兄弟姉妹のシンポジウムを開きました。前年度の保護者対象の懇話会が好評だったため、この年は兄弟姉妹版を試みました。

児童生徒はマンツーマンボランティアと一緒に昼食のカレーライスを食べました。体育館付近では模擬店 3 店と呑父(おやじの会)による販売も行いました。91 家庭と 134 名のボランティアが参加しました。ボランティアとしてはマンツーマンボランティア、アトラクションボランティア、スタッフボランティア、託児ボランティア、アドバイザーとさまざまな形のボランティアして活躍していただきました。本校の先生方もサポーターとして参加していただき、総勢 440 名で一日を楽しみました。

## (2) 地域への啓発活動としての親子交流会とボランティア養成

「じゃんぴんぐフェスタ」が親の会の事業として定着するにつれて、この「じゃんぴんぐフェスタ」をとおして、児童生徒の居住地域や三好養護学校の近隣の方々に障がいのある児童生徒のことをもっと知っていただこうと考えました。地域の皆様に、ボランティアとして参加いただけたなら、より一層障がい児・者の理解が深まっていくのではないかと考えたのです。

児童生徒は多くの人々(ボランティア)との触れ合いをとおして人に慣れることができます。地域の皆様の理解が進むと同時に、児童生徒には地域における様々な活動に自ら進んで参加しようとする意欲を育てることができると思います。

そして、やがては三好養護学校の児童生徒、卒業生、そして保護者を含めた皆がそれぞれの地域で、豊かな生活を送ることができるようになれば素晴らしいことだと考えました。

ボランティアの方たちには、知的障害のある児童生徒との触れ合いをとおして、支援の仕方を体得していただきたいと思います。さらに、ボランティアとして必要な知識、技能、態度を身に付けていただくことで、意識も高めていただけるのではないかと考えます。一方、保護者や学校が、必要なときに、必要に応じたお願いができるボランティアを養成するシステムができればよいと思います。このような実践をとおして、最終的には、多くの方々が障がいのある児童生徒を



写真5 アクションボランティア

個性のある児童生徒として、自然に受け入れる社会、インクルーシブな社会の実現に一步でも近づくことになるのではないかと考えました。年一回の事業ではボランティアの養成は難しく、なかなかボランティアが育たない状況でした。そこで、次のような課題を再確認し、平成 20 年度に申し送りました。

### (3) ボランティアを養成するための今後の課題

- ア 「じゃんびんぐフェスタ」で関係が結ばれた団体(行政、学校、企業等)との結びつきを広げ、幅広くボランティアを募ることができるようにしていくこと。
- イ 年一回の事業では、ボランティアをうまく生かせないため、活動内容や参加の仕方が分かりやすい複数の事業を実施する必要があること。
- ウ 地域の活動だけではボランティアの定着が難しいため、啓発活動の意味も含めて、学校の各種行事に積極的にボランティアをお願いし、ボランティアを養成していくこと。

## 4 平成 20 年度のボランティア養成事業の取組

平成 20 年度は全国特別支援学校知的障害教育 P T A 連合会の研究助成をいただけることになり、親の会としてボランティア養成事業に本格的に取り組むことになりました。取り組むにあたり、昨年度までの課題を踏まえ下記の方針を立ててボランティア養成事業に臨むこととしました。

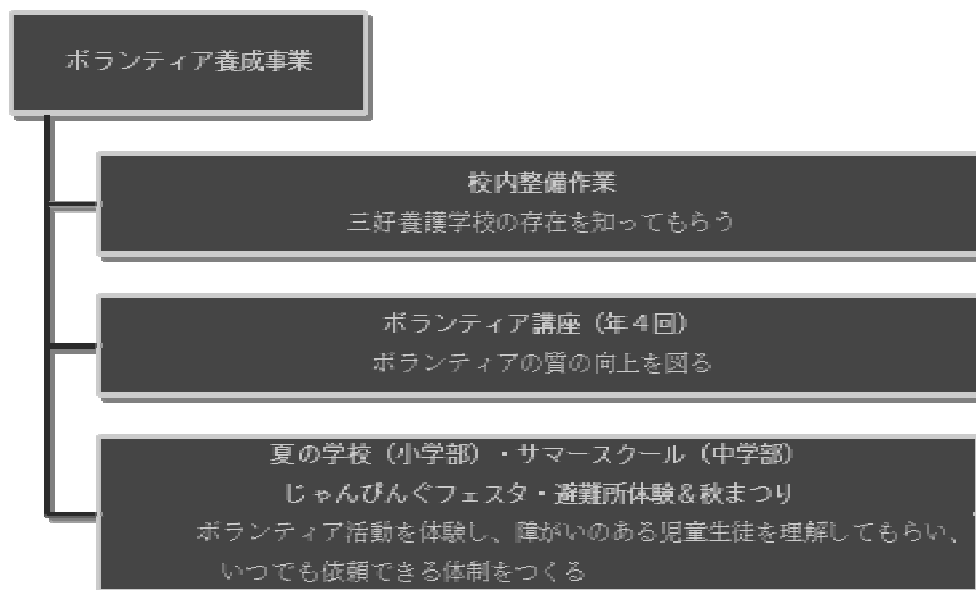
親の会の複数の事業(一部学校行事)にボランティアの参加をお願いする。

平成 19 年度までの「じゃんびんぐフェスタ」等で依頼したボランティア団体を中心に、幅広くボランティアを依頼するとともに、学校の存在を知っていただく啓発活動を行う。

資料(テキスト)を作成し、ボランティア講座を実施することをとおして、ボランティアの質の向上を図る。

ボランティアを依頼する回数を昨年までの、「親の会校内環境整備」、「夏の学校」(小学部)、「サマースクール」(中学部)、「じゃんびんぐフェスタ」の 4 回から、平成 20 年度は新しい親の会の事業として「避難所体験&秋まつり」を加え 5 回を計画しました。

また、平成 20 年度は、障がい児理解のためのテキストの作成やボランティア講座の工夫により、ボランティアの質の向上を図ることにしました。



### (1) 校内整備作業でのボランティア養成

夏休みの最初の土、日曜日に保護者と先生方とで学校内の整備を行う事業を始めました。平成 18 年度は校舎内のペンキ塗りをしました。平成 19 年度は、樹木の剪定・ベンチや腰掛けの修理、建具の修理を行いました。

平成 20 年度は、遊具のペンキ塗りに、山コースの散歩道の整備等を行いました。ボランティ

アの方々には暑い中、作業に取り組んでいただき、ありがたく思うとともに学校内の現状を理解していただくよい機会となりました。

表-2 校内整備作業への参加者一覧

日 時		保 護 者			職 員	ボ ランティア	計	総 計
		小学部	中学部	高等部				
7月 19日	午前	15	9	27	34	3	88	253
	午後	1	3	2	23	6	35	
7月 20日	午前	6	7	10	71	17	111	
	午後	2	3	5	9	0	19	
				合計	137	26	253	

ア ボランティアの募集(表-2参照)

三好町社会福祉協議会に依頼したところ、申し込みがあったのは2日間で26名でした。

イ ボランティア講座の実施

児童生徒とかかわれなかったので、学校内の見学をして様子を知っていただきました。

ウ ボランティアの活動内容

遊具のペンキ塗りや除草作業、敷地の裏山の散歩道を造る作業を行っていただきました。

エ ボランティア養成の成果

ボランティアには、学校の環境面での現状を知っていただけました。また、一部のボランティアの方は学校行事(文化祭)での手伝いも約束されました。

(2) 夏の学校とサマースクールでのボランティア養成

ア ボランティアの募集

本校では夏休みに入ってすぐの週に小学部が夏の学校を、夏休みの終わりに中学部がサマースクールを実施しています。従来は、児童生徒と保護者と先生方とで行ってききましたが、平成20年度は豊田市社会福祉協議会主催の「ボランティア体験隊2008」に協力を依頼しました。

「ボランティア体験隊2008」開催要項	
1	目 的 市民がボランティア体験できる機会をつくり、参加者が体験を通して福祉活動 又は地域社会に対する関心や理解を深めることを目的として開催します。
2	主 催 豊田市社会福祉協議会
3	後 援 トヨタボランティアセンター・(財)あすて とよた市民活動センター・社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
4	内 容 ボランティア体験種別 参加者は2日間(2回以上)の体験ができるようプログラムの設定をします。 2日間以上の体験 例:施設型体の普段のボランティア活動や行事へ参加 宿泊を伴う体験 長期参加型の体験 その他の体験
5	開催方法 豊田市内の福祉施設や団体が体験プログラム(日程、体験内容などを企画し、その体験プログラムで参加者を募ります。
6	体験期間 平成20年7月19日(土)~平成20年8月31日(日)
7	参加対象 豊田市内在住または在学・在勤の中学生以上の方
8	経 費 交通費や食事代、その他宿泊費など参加にかかる費用は、参加者負担とします。
9	保 険 参加者全員にボランティア保険(260円以上)に加入していただき、その保険の範囲内での補償となります。
10	申 込 み 参加希望者が体験プログラムの中から参加先を選び、申込期間中に所定の用紙でボランティアセンターに申し込みます。
11	問合せ先 豊田市社会福祉協議会 地域福祉課 ボランティアセンター

表-3 「ボランティア体験隊2008」開催要項

小学部・中学部合わせて10日間総計20名の依頼を社会福祉協議会に出しましたが、参加申し込みがあったのは中学部のサマースクールへの、2日間の2名のみでした。

#### イ ボランティア講座の実施

講座は実施しませんでした。開始前の時間を使って教師や保護者から、児童生徒との接し方についてポイントを説明しました。

#### ウ ボランティアの活動内容

平日でしたが、社会人のボランティアで初日は調理の補助、2日目は運動遊びの補助活動をお願いし、生徒と実際に触れ合っていました。

#### エ ボランティア養成の成果

体験終了後、ボランティアと方々に感想をうかがうと、児童生徒との触れ合いを非常に好意的に受け止めてくださっていることがわかりました。また、先生方からも「よい方だった」「今後も機会があればお願いしたい」との感想をいただきました。ボランティアの方は、養護学校のことを知りたいという気軽なきっかけから参加し、障害のある児童生徒との触れ合いをとおして支援や介助に興味や関心を持たれ、今まで以上に意識を高められたと感じました。

### 感想文（振り返りシートより）

今回の体験対に参加した理由は？

地域で暮らすいろいろな子どもさんとの触れ合いと、今まで知らなかった学校を知りたいと思った。

この体験で楽しかったことはなんですか。

生徒さんと共に過ごせた時間です。1日目の調理実習では、先生の言葉掛けで生徒さんが試食を私の手の平にのせてくれました。

「いただきます」「はい、どうぞ」の言葉掛けがとてもうれしかった。

2日目、運動：流れてくる音楽に合わせて自然に体も動き、ニコッと笑顔があったことがうれしかった。エアートランポリンは理由なく、体の動きを大きく感じてみんな笑顔がはじけていた。

この体験で学んだことは何ですか。

多くの先生、保護者の方々の支えで地域の中で生活している多くの子どもたちがいることを知りました。一人一人個性のある大切な存在であることに気付きました。体験させていただける時間内に声をかけたりして自ら行動し、楽しむことを学びました。

この体験隊を経験して、これからの自分の生活の中で生かしたいことはなんですか。

日常生活の中で、見て、聞いて、話して、常にいろいろなことに関心をもつ。そして、自ら動いて、自分のできることをできる範囲で社会に生かしたいと思った。

### (3) 「じゃんびんぐフェスタ2008」でのボランティア養成

#### ア 「じゃんびんぐフェスタ」の目的

(ア) 三好養護学校の児童生徒、卒業生、そして保護者や家族全員がそれぞれの地域で、豊かな生活を送るため、さまざまな地域の活動に自ら参加しようとする意欲を育てる。

(イ) 児童生徒は、多くのボランティアさんとの触れ合いによって家族以外の人に慣れる。

(ウ) ボランティアに障がいに対する理解を深めてもらう。

(エ) 保護者・家族には、日頃体験できない講座や、体験をとおして楽しさや明日へのエネルギーを感じてもらう。

#### イ 「じゃんびんぐフェスタ」のテーマ

テーマは障がいがあってもなくても一緒に一日を過ごしたいとの思いを込め、「みんなで一緒に」としました。



ウ 「じゃんぴんぐフェスタ」のプログラム  
 年度当初、プログラムのアウトラインを決め、出演団体の交渉や各ボランティア団体、各学校、大学への案内、募集を開始しました。昨年度の要望から午前中は児童生徒には、体を動かすプログラムを、保護者（特に母親）向けとして癒しの講座を、小さい兄弟が退屈しないように人形劇をそれぞれ企画しました。そして、午後は全員が一つの場所で音楽を聴きながら、ゆったり過ごせるような企画をしました。具体的な内容は表4を参照してください。

## ボランティア募集

と★ 10月18日(土) 9:30~15:00

場所 県立三好養護学校にて

障がいのある子ども達とふれあい、楽しい一日を過ごしてくださる方を募集します。  
 ビュアな笑顔で、多くのみなさんのご参加をお待ちしています。



090-3833-5531  
 yogo2008@icroweb.ne.jp

ボランティア養成がスター

表4 ボランティア募集要項

# ボランティア募集についてのお願い

～じゃんぴんぐフェスタ2008～

さて三好養護学校親の会では、本校児童生徒が多くの方と触れ合いながら楽しい一日を過ごすことを目的にして「じゃんぴんぐフェスタ2008」を計画いたしました。つきましてはこの活動に貴ボランティアの皆様のお力をお借りしたいと存じます。是非ともご参加頂きますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時 平成20年10月18日(土曜) 午前9時30分～午後3時
- 2 場所 愛知県立三好養護学校運動場及び体育館(雨天時は体育館)  
 愛知県西加茂郡三好町大字打越字山の神1番地2
- 3 対象者 知的障がいのある子供に関心のある方ならどなたでも!
- 4 内容

時間	児童生徒保護者他家族	保護者	小さい兄弟姉妹
10:00～10:30	受付及びボランティアとの顔合わせ <span style="float: right;">運動場</span>		
10:30～10:45	開 会 式 <span style="float: right;">体育館</span>		
午前の部 DEP 緊急参戦!	みんなで 体を動かそう! ～三好ソーラン <span style="float: right;">体育館</span> ボンパズ演舞～ ～ミニゲーム <span style="float: right;">運動場</span> &運動会～	癒されたい方 どうぞ! ～アロマセラピー 会～ <span style="float: right;">会議室</span>	ちびっこも 楽しもう! ～人形劇が あるよ～ <span style="float: right;">校内教室</span>
ランチタイム 12:15～13:00	みんなで昼食を食べよう! ～模擬店で買い物体験してね～ <span style="float: right;">体育館外</span>		
午後の部 13:00～14:00	みんなで音楽を楽しもう! ～アルパ演奏～ ～バンド演奏～ <span style="float: right;">体育館</span>	いろんな音楽にふれて みてね	
14:00～	閉 会 式 <span style="float: right;">体育館</span>		

DEPとはプロレスのボランティアグループのことです。

### 5 その他

- \* 粗食ですが、昼食を準備させていただきます
- \* 飲み物をご持参ください(模擬店での購入可)
- \* 動きやすい服装と両手の空く状態での活動をお願いします。
- \* 行事保険に加入いたします(当方負担にて)。
- \* 事前説明会を予定しています(申し込み後にお知らせします)
- \* 台風接近等の場合前日の18時に開催の有無を決定し三好養護学校親の会ホームページに掲載します。
- \* 申し込みは FAX (0561)32-\*\*\*\*又は上記アドレスまで

## エ ボランティアの募集

マンツーマンボランティアの確保のために、25校の高校や大学にボランティア募集要項を持って、ボランティアのお願いをしに出向きました。また、本校に介護等体験で来校した大学生にも直接呼びかけをしました。その他、地域の社会福祉協議会や過去の「じゃんぴんぐフェスタ」に参加された企業やサークルを始め、関係者の縁故も使って声をかけさせていただきました。

## オ ボランティア講座の実施

- (ア) 期 日 第1回 平成20年9月27日(土)午前10時30分から(参加者10名)  
第2回 平成20年10月4日(土)午後2時から(参加者9名)

(イ) 場 所 三好アイモール 会議室

(ウ) 内 容

### a 「じゃんぴんぐフェスタ2008」の説明

当日は、本校の先生から児童生徒と接するための簡単なアドバイスをうけたあとに、担当する児童生徒と対面してマンツーマンボランティアが始まること。当日、保護者が記入した児童生徒の紹介カード(表-5)と顔写真をボランティアに渡すこと。また、保護者から児童生徒への支援や介助のポイントについて直接聞く機会があることを話しました。

### b 児童生徒の障がいの特性に応じたかかわり方の説明

障がいといっても一人一人違うので、一つの個性ととらえてほしい。

伝えたいことは短く、分かりやすい言い方で伝えてほしい。

頭ごなしに「ダメ!」と否定的に言うのではなく、「~しようね」という言い方で伝えてほしい。

わからないこと、困ったことがあったら、遠慮なく先生や保護者、担当者に声をかけてほしい。

両手が使える状態での支援や介助をしてほしい。

今後の活動の参考にさせていただくため、当日、終了後にアンケートに協力してほしい。

ミネルバ書房の了解を得て作成した、ボランティア向け携帯版手引き「自閉症について」(巻末資料1の1, 1の2参照)、「ダウン症について」(巻末資料2の1, 2の2参照)、「知的障害について」(巻末資料3の1, 3の2参照)を配布して説明をしました。

## カ ボランティアの活動内容

当日は、児童生徒とマンツーマンで活動するマンツーマンボランティア、アトラクションをしていただくアトラクションボランティア、親の会バザーを手助けしていただくスタッフボランティア、それに小さなお子さんの面倒をみていただく託児ボランティアとして活動していただきました。総勢135名のボランティアに参加していただき、サポーターとして、本校の先生方30名も参加していただきました。

## キ ボランティア養成の成果と課題

「じゃんぴんぐフェスタ」となって、今回で5回目となりました。参加者も平成19年度から400名を超え、親の会事業のメインイベントとなりました。

当日は天候にも恵まれ、会場には児童生徒の明るい笑顔とボランティアの優しい笑顔が見られました。毎年参加してくださるボランティアもみえ「今年も会えましたね」「お久しぶり」という声も聞かれました。

成果としては、毎年参加してくださるボランティアが、初めて参加するボランティアに児童生徒へのかかわり方をアドバイスするなどの場面が見られ、ボランティアが参加する事業を毎年実施することの大切さを学びました。また、「じゃんぴんぐフェスタ2008」のマンツーマンボランティアのアンケート(巻末資料4の1, 4の2参照)の意見として、全員が「今後もこのような

事業に参加したい」と答え、感想として「よい体験になった」「とても楽しかった」などの好意的な意見が多く、ボランティア養成事業としての意義があったことがあげられます。

アンケートから「ボランティア養成講座に参加できない人への説明の機会の確保」「ボランティアと保護者や教員との連携の方法」等、ボランティアの方々から、今後親の会として考慮していかなくてはならない課題を多く示唆していただきました。

また、親の会事業部が中心になって運営していますが、その負担がかなり大きいこと、そして児童生徒の参加が年々増える中でボランティアの人数の確保、当日のボランティアの欠席への対応などが課題ではないかと思っています。

<p>じゃんびんぐ フェスタ 2008</p> <p>保護者の携帯番号</p> <p>-----</p> <p>小・中・高</p> <p>-----</p> <p>年 組</p> <p>-----</p> <p>血液型</p> <p>-----</p> <p>型(+・-)</p> <p>-----</p> <p>ふりがな 氏 名</p>	<p>写 真</p>	<p>好きなこと・得意なこと</p> <hr/> <p>キライなこと・苦手なこと</p> <hr/> <p>排世の介助 対応 サインなど・・・</p> <p>・必要 ( )</p> <p>・不必要</p> <hr/> <p>その他気を付けてほしいこと</p>	<p>当日参加予定の保護者の携帯番号を記入 (緊急の場合に必要)</p> <p>所属学部 科 をつけ、学年、組を記入 氏名は見やすく、大きく記入 (ふりがなも忘れずに記入)</p> <p>好きなこと得意なこと、なるべくたくさん記入 キライなこと・苦手なことは具体的に記入 (一番大切なことなのでわかりやすく記入)</p> <p>その他気を付けてほしいこと パニック、自傷、他害なども含め記入 (その時の対応についても記入)</p> <p>写真はあはれ貼って下さい なければ事業部で撮影</p> <p>* ~ については当日ボランティアさんと顔合わせの際に“これだけは・・・”という点を直接伝えていただくと、より伝わります。</p>
<p>紹介カード</p>			

表-5 紹介カード

## 5 新しい取組「避難所体験&秋まつり」

### (1) 取組の経緯

いつ起こるかかわからない自然災害に遭遇した時、知的障がいのある児童生徒は初めての場所やでき事が苦手であるため、避難所で生活することは難しいだろうと多くの保護者は考え、不安を抱えています。普段から通い慣れている学校であっても、休みの日に出掛けて行くことや夕方から出掛けるだけでも、奇声をあげたりパニックを起こすことが予想され、保護者にとっては気が重く不安です。その原因の一つには親子での様々な経験が少ないことや、支援者の理解があまり進んでいないからだと感じています。

そこで、学校を避難所と想定し支援者も交えて疑似体験をしておく必要があると考えました。学校が「大規模地震に対するアンケート」(巻末資料5の1, 5の2)を実施した結果、大規模災害に対する保護者の意識が低いことも分かり、勉強会を組み入れることにしました。また、同時に秋まつりも取り入れて、児童生徒が夜の活動に慣れる機会を試みることにしました。

## (2) ボランティアの募集

じゃんぴんぐフェスタと同様に、高校や大学にボランティアをお願いしました。また、三市三町の教育委員会、福祉課、社会福祉協議会にもお願いして回りました。その結果、当日は39名のボランティアの参加がありました。

## (3) ボランティア講座の実施とボランティア活動の内容

平成20年9月27日に実施した「避難所体験と秋まつり」の開催前の時間を利用してボランティアの方々に「障がいの特性に応じた配慮と関わり方」(巻末資料6)を使いボランティア講座を実施しました。講座では、主に以下の内容を話しました。

知的障がいの児童生徒をもつ保護者としての思い・願い・支援の仕方やかかわり方。

「ボランティア登録へのお願い」用紙への記入。(今後の親の会の事業、学校の行事等において必要な時に個人宛に連絡するため)

児童生徒の支援方法について質問や困ったことなどがあれば、法被を着用したアドバイザー(教員)に尋ねること。ボランティア活動の内容として、会場の準備や機材の設置、食料品の配布秋まつりのコーナー手伝い、講演や講話の講師をお願いしました。

## (4) 避難所体験の活動の内容

### ア 避難所体験

時間に合わせ、家から各々家族単位で毛布と懐中電灯を持って体育館に集まりました。体育館前の受付では赤十字奉仕団のボランティアの方からスティック乾パンやアルファ米が配布されました。その場で封を開け手順に従って調理体験しました。すぐには食べることができないので、待つ体験をしました。体育館内で

皆さんこんにちは「吞父初めての研修会と秋まつり」がこのようにたくさんの方々の温かいご理解とご協力のおかげで、開催できることをとてもうれしく思います。ありがとうございます。今回の避難所体験のきっかけは「いつ起こるか分からない自然災害。被災した時、私たちの子どもが果たして居住地の避難所で毛布にくるまって生活が送れるだろうか? 絶対できない、難しい、でも一度は、保護者も子どもも体験しておくべきだ」という意見がありました。そこで校長先生と相談をしながら今日に至っています。さて、今から実際に学校の体育館で避難所体験をしてみます。多くの方々からお話しをお聞きすることで、障がいをもつ子どもの親として何かが見えてくるのではな、かなあと思います。私も勉強したいと思っています。自分の命は自分で守らなければならぬですからね。また同時に楽しい秋まつりも体育館の外で行います。盆踊りもありますので皆さんでできるだけ8時までお付き合いください。子供さんの都合もあると思いますので、途中でそっと帰宅されても構いません。楽しく有意義な時間を過ごしましょう!

その後、勉強会の時間になります。ここで準備の都合上少し時間を設けます。お子さんは新校舎9棟で遊ばせておくことも可能です。エアートランポリン、ビデオ観賞、工作、音楽あそびを準備しました。ご支援いただける大学生のボランティアさん、社会福祉協議会からのボランティアさん、個人ボランティアさん、学校の先生方がみえます。お子さんの状況に応じてご利用下さい。

吞父会長のあいさつ



写真6 防災についての勉強会

は仮設トイレや間仕切りパーテーションが設置されており、ボランティアの説明に従って家族単位で体験してみました。また各市町の防災マップや防災グッズを手にとって確認する姿がみられました。

### イ 開会式

(ア) 校長先生挨拶

(イ) 親の会・吞父挨拶

(ウ) 来賓紹介

(エ) ボランティア紹介

ウ 防災についての勉強会(写真6)

家族単位で毛布に座り、豊田市こども発達センターの相談員谷澤雄樹様より「避難所生活のポイント」について助言を受け、配布された非常食を試食しました。

続いて、愛知県防災局危機管理課森昭夫主査様より、パワーポイントで実際の地震や避難所生活の動画を見ながら、地震で死なないための「日ごろの備え」「地震……その時」「避難生活」についての講義を聞きました。保護者の方々は真剣な表情で話に耳を傾け、自分(家族)の命を守るためには、まず自分が動かなくてはいけないことを改めて確認しました。

最後に、実際に2000年9月の東海豪雨で被災した、障がい者の人たちへのボランティア活動を体験したNPO法人コンビニの会の代表大川美知子様の講話があり、地域のつながりやネットワークの大切さを教えられました。

#### エ 防災体験・研修会

##### (ア) 救命ボランティアによるAED 簡単講習会(3回実施)

人形を使いながらAEDの使用方法を分かりやすく学びました。

##### (イ) 消防署員による消火器取扱い訓練講習会(適宜実施)

素早く水消火器を操作し、炎が描かれた的に向けて消火する体験をしました。

##### (ウ) 消防署員によるはしご車の作動見学(写真7)

13階建てのビルまで届く長いはしごを目の当たりにした参加者は一様に驚きました。

##### (エ) 救急車の見学

普段近くでは見られない救急車の設備をじっくりと見学しました。

#### (5) 秋まつりの実施

学校では、ふだんは明るい時間に生活をしています。児童生徒が夜間の学校での活動にも慣れるための避難所体験を終えた後に、秋まつりを実施しました。秋まつりでは、児童生徒が楽しめるように、夜店を6店出店してゲームコーナー(写真8)を設け、親の会有志による踊りやダンスを実施しました。児童生徒は、夜の学校で行われる初めてのイベントを体験しましたが、パニックを起こすこともなく、ボランティアと楽しい一時を過ごすことができました。

今後も万一来て、夜の学校でも混乱することなく安定した心理状態で過ごせるように、このようなイベントをとおして体験を積むことが必要だと思いました。

なお、夜店やゲーム、踊りとダンスは以下の方々に協力をいただきました。

#### 夜店

・ 社団法人愛知県セルフセンター  
県内の施設で作られた製品の販売、施設への仕事の斡旋を主に事業としています。

・ NPO法人なかまの家(ポ!ポ!)  
在校生、卒業生が利用している事業所です。

・ 豊明福祉会マーメイドカフェ  
在校生、卒業生が利用している事業



写真7 はしご車の作動見学



写真8 スーパーボールすくい

所です。

・コンビニ

在校生の保護者が経営しています。

・地域の焼鳥屋

ご賛同いただき出店願いました。

・呑父の店(餃子と豚汁)

ボランティアが担当しました。

ゲーム

・輪投げ、おやつゲット、金魚すくい、スーパーボールすくい、ヨーヨーつり

兄弟姉妹のボランティア、個人ボランティアが担当しました。

出し物

・盆踊り、ダンス

保護者の有志が担当しました。

## (6) 取組の成果と今後の課題

当初、この避難所体験を計画していた時期は夏休みの終わり間近でした。長い夏休みを家で過ごすことが多い児童生徒に外出の機会をと考え設定していました。しかし当日、大雨洪水警報が本校在校生の居住地に発令され延期となってしまいました。予定していたボランティアを始め各自治体の防災課や消防署等に、延期のお知らせと次回の予定確認に回るとともに、再度内容を検討しました。夏まつりを秋まつりに変更し、児童生徒と保護者が参加しやすい状況を設定し、開催に至った事業でした。

障がいのある児童生徒の保護者の防災に対する意識を高められたかどうかは分かりません。また、ボランティアの支援のあり方についても「今回はマンツーマンボランティアではないの?」といった保護者からの声もあり、多くの課題を残した形になりました。

障がいのある児童生徒にとって、初めての場所や突然の出来事はパニックを引き起こし、保護者もその周りの人々も混乱することが確実に予想されます。学校という毎日通い慣れている場所が、どのような形であれ避難所に指定されれば、保護者が今よりは安心できることは間違いないと確信しました。

学校と保護者と地域が、そして何よりも支援者が障がいのある児童生徒を中心に協力し合い、防災に対するの対策を進め意識を高めるためには、毎年親の会恒例事業としていくことが必要だと感じます。

マンツーマンボランティアの形として、平成18年度から取り組み定着している「じゃんぴんぐフェスタ」と今回の「避難所体験」をタイアップすることで、より多くのそして多方向からのボランティアに、参加していただくことが可能になります。来年度から、是非とも取り組みたい親の会の事業です。また、事業を開催する度にボランティア登録をしてもらい「いつでも必要な時にボランティアを利用できる」そんな仕組みができるといいなと感じています。

最後に、いろいろな角度から多くの支援をいただくためには、何といたっても保護者が居住地域の中で障がいのある我が子のことを広く知ってもらい、保護者と学校が一緒になりボランティアを取り込み、育てることが何より必要なことだと思います。

## 6 ボランティア養成事業に取り組んで

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会の研究助成を受け、地域の人々に知的障害養護学校の存在を知っていただくための啓発活動を行うこと、ボランティア講座の実施によりボランティアの質の向上を図ること、実際のボランティア活動をとおして、より障がいのある児童生徒の理解を図ることを目標にボランティア養成事業に取り組んできました。

実際に取り組んでみて、多くの課題が見えてきました。第一に親の会の組織の連携のあり方です。事業の計画ができていたにもかかわらず、情報の共有と共通認識不足でいざ始めてみると足並みがそろわず不協和音が生じたことです。第二に親の会の組織のあり方です。今回の事業は、ほとんどが事業部に任せられ、親の会全体の事業とならなかったことです。この二点については、今後親の会役員会で課題としてしっかり反省して、平成 21 年度に向けて生かしたいと考えます。

親の会の課題のほかに、ボランティアをどう集めるかが大きな課題です。特に、ボランティア講座への参加者が少なく苦慮しました。しかし、始めたばかりの事業です。今後も継続して多くのボランティアが参加していただける講座を積極的に計画していきたいと思っています。

課題ばかりでなく多くの成果もありました。平成 20 年度から始めた「避難所体験」は、近い将来必ず襲来すると言われている大規模地震に備えたもので、先駆的な取組として新聞(巻末資料7参照)にも取り上げられ、多くのボランティアに協力をいただきました。また、本校では初めてボランティア講座のテキスト(巻末資料1の1, 1の2, 2の1, 2の2, 3の1, 3の2参照)も作成することができました。親の会のボランティア養成事業の呼びかけで、学校行事への地域住民の参加も増加しました。これも、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会の研究助成をいただいたおかげと感謝しています。

「じゃんびんぐフェスタ」も、5年を経て形ができあがってきました。ボランティア養成事業も毎年開催する中で、必ずボランティアの参加も増加し、本校親の会の特色ある事業となっていくと考えます。

今年、初のアフリカ系アメリカ人がアメリカ合衆国大統領に選出されました。国連総会で人種差別撤廃条約が採択されたのが、1965年のことでした。息の長い取組の成果と思われます。インクルーシブな社会の実現に向けて一步一步確実に世界も、そして日本も歩んでいるように思われます。本校親の会のこのささやかな取組が、障害があっても無くても人として同じように豊かに暮らすことができる社会の実現につながることを願ってやみません。

携帯版

# 自閉症候群って なあに？



愛知県立三好養護学校 親の会

自閉症はかぜのように一時的な治療で治るものでもなく、また、愛情が不足してなるような心の病気でもありません。

自閉症は、中枢神経系が生まれつきうまく働かないことが原因ではないかと考えられています。

## 自閉症のさまざまな特徴

### ① 人と上手に言葉交われない・うまく出来ない事

具体例：他の人と目を合わせて会話をする  
うれしさを表わす事

多くの人が何も考えずにしている事ですが、自閉症の人は他の人がどう思うかを自然に分かることや、言葉に出して言わないけれど、みんなが守っている決まりのようなものを理解するということがうまく出来ません。

また、自分の気持ちを表情や身振りなどで表現して他の人に伝える事もうまくありません。

(本文P.40, P.42)



②

自閉症は病気ではなく生まれつきの特徴

この手引きでは「自閉症」という言葉を、**〔自閉症スペクトラム〕**という広いとらえ方で使っています。

まず、自閉症と診断される人には、特徴の現れ方の強い人と弱い人などの違いがあります。また、同じ人でも、ある特徴は認められるけれども別の特徴は気づかれにくい目立たないということもあります。また、知的なおくれがある人もいればそうでない人もいます。このような違いから、知的なおくれが目立たない自閉症は、「アスペルガー症候群」と呼んで知的なおくれのある自閉症と区別することがあります。

「自閉症スペクトラム」は、この区別をしないとらえ方です。

自閉症とはどういうものなのでしょうか？自閉症が何かを知る上で大事なことは次の3つです。

- ① 自閉症は内気とか人嫌いななどの性格的なものを表すものではない
- ② 自閉症は病気ではなく生まれつきの障害
- ③ 自閉症は人によってあらわれ方が違う

①

(本文P.40)

### ② コミュニケーションがうまく出来ない

具体例：相手の言った事を理解する

自閉症の人は、言葉の発達がみられる事があります。言葉を使う事はできても、その意味を正確にわかっていなかったり、いろいろな意味を持つ言葉をその場に合わせた使い分けの事は難しかったりすることもあります。



(本文P.42, P.43)

### ② 想像力が乏しい・こだわりがある

具体例：同じ所や物をじっと見続ける  
決まった道や順序などでしか行動しない

自閉症の人は、もしも〇〇だったら・・・と、本当はそうでない事を思い描いてみる事がうまく出来ません。

このことが原因となって、様々なこだわりが見られることも多いです。

③



気をつけたいこと

言われた事が理解できないまま、思った事が伝えられない、何をしたらいいのかわからないといった事などから



ストレスが溜まってパニックになり、時には自分で自分を傷つけてしまう人もいます。また、そういった不安が表情に表れにくい人も多いため、それまでお父さんやお母さん、兄弟姉妹など見知った人の中で分ってもらえる事も多かった事が、はじめて会う沢山の人のなかかなか伝わらないというわけです。

自閉症の人がパニックになるのには、そうなる理由がありました。ですから、その理由を理解しようとしないうまま、とにかくやっている事を止めさせようとするのは、かえって自閉症の人を追い詰めてしまいます。

手助けの仕方

**手助け1** 自閉症の人は目で見て理解する事が得意なので、伝える方法には、実物を見せる、絵や写真を見せる、文字で書くなどがあります。

4

ですから、話しかける時は、穏やかに話すようにします。

驚きや苦しみは表情に表れにくい人もいて、注意をした人からすると聞き流されているように感じる事もあるかもしれません。

だからだといって、いきなり肩に乱暴に手をかけて注意をこちらに向けさせようとする、パニックの原因になる事もあります。急に体にタッチするのは避けてください。



自閉症の人は、記憶力が大変よく、特にいやだったり、怖かった事を忘れられないで苦しんでいる事も多いようです。

— ボランティアの方々へ —  
共に生きる仲間として、自然に接することが出来る人が増えるようにと願ってやみません。

その人によって、どの方法が伝わりやすいのか確かめながら工夫する事が必要です。また、自閉症の人が周囲に伝える方法も様々です。

絵カードを見せて自分の気持ちを伝える事もあります。そういう時は、驚かないできちんと見てください。

**手助け2**

自閉症の人は、予定がわからない事に大きな不安や苦痛を感じます。その日、その時間に何をするのか分ると安心できます。予定を知らせる時には、文字や絵や写真で、また、実物でなくては分からない人には、実物を見せる方法を使います。

**手助け3**

自閉症の人は、いろいろな音が聞こえたりすると気が散ってしまう人もいて、これを防ぐ為に、様々な工夫をする事が必要です。ついでで遊んだり、音が気になる場合はヘッドホンをする事もあります。

また、気持ちが高ぶってしまった時には、別の部屋(場所)などに行って気持ちを落ち着かせる事ができるようにすることもあります。

**手助け4**

大きな声で話したり、「～したらだめ」と怒鳴ったりすると、自閉症の人はその人が怒っていると思っ、その事だけしか感じられなくなってしまいます。

5

参考文献

発達と障害を考える本

1 『不しがたね? 自閉症のおともだち』

玉井 邦夫一監修  
ミネルヴァ書房



ホームページアドレス

<http://www.minervashobo.co.jp/>

※ 尚、ボランティアへのガイドのために作成されたもので、それ以外の使用は

携帯版

ダウン症は生まれつきの障害

# ダウン症候群って なあに？



愛知県立三好養護学校 親の会

ダウン症は、正確には「ダウン症候群」といいます。「症候群」とは、はっきりとした原因は不明けれども、いくつかの症状が共通して見られるものを使う言葉です。

ダウン症は染色体異常による生まれつきの障害です。インフルエンザなどのように近くにいる人うつる感染症でもありません。

また、ダウン症は知的障害やほかの症状（心臓や目・耳など）になんらかの問題がある人も多いです。

染色体が1つの細胞にどれだけあるのかは生き物の種類によって決まっています。

染色体は2本で1組になっているのがふつうで、人の場合は23組です。

ダウン症の人は、この内21番目の組の染色体に変化が起こっています。

それがなぜ起こるのかはよくわかっていませんが、今後、科学が進んで解明されるかも知れません。

染色体異常は、ダウン症以外にもあります。5番目の組の染色体が1本欠けているネコ鳴き症候群等、他にもさまざまなものがあります。

①

(本文P.40, P4)

## ダウン症の人の特徴

関節や筋肉が柔らかすぎるほどやわらかいことです。

椅子に座っている時ある程度関節や筋肉を緊張させておく必要があります。この緊張が弱く、ぐにやぐにやした印象を受けます。



**注意しなくてはならないのは、ダウン症の人には、首の構造が弱い人もいるという事です。**

首の骨は頸椎が積み重なってできていますが、この頸椎の中には、人の生命活動の中心となる神経の束があります。

この神経の束が強く押されると死んでしまうことも有りますし、下半身が麻痺してしまう事も有ります。3歳を過ぎてから、頸椎（けいつい）検査を受けますが、首の構造が弱い人は、無理にでんぐり返しをしないなど、気をつける事がいろいろあります。



②

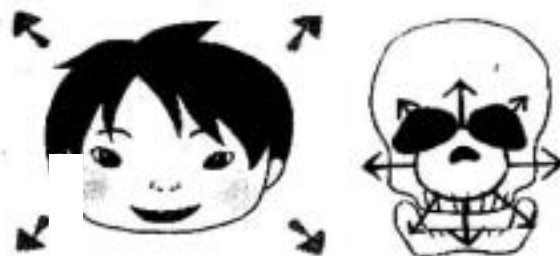
(本文P.43)

## 外見からダウン症とわかる？

ダウン症の人は、顔つきがにていることが多いです。

少しっり目がちであるところですが。

鼻が低めで両目の間が広く、これは顔の中心部の骨などの発達が遅いことに対して、顔の周囲は通常で発達するからではないかと言われていました。



鼻と周囲見え 顔の周囲の骨格はまだ発達していないうちに顔の骨格は育っていき、皮膚が引っ張られています。また皮膚が目がしらをおおってしまっ、より目にも有ります。

③

(本文P.43)

ダウン症の人は、背丈が低くぼっちゃりしていることも多いです。

背丈は全体的に低めですが、理由は分かりません。ぼっちゃりしているのは、筋肉がやわらかいためにそう見えることもあるでしょう。また、顎の力が強くないために食事の時によく噛めずに飲み込んでしまうことも原因として考えられます。



また、心臓病があったり疲れやすい体質であったりすると運動不足になり、太る事もあります。しかし、これはダウン症の人全てに見られる特徴とはいえません。

4

(本文P.44)

また、あごの発達がゆっくりである場合、舌が口の中でなめらかに動かせず、舌足らずな話し方になっています。

その他に、耳が聞こえづらいことも考えられます。正確な音が聞き取れないので発音がわからず、聞き取りにくい話し方になるというわけです。また早口で聞き取りにくい、どもるといふ事もあります。言葉が頭の中にあふれて気がせいじまっている状態です。

ゆっくり話すことを練習していくうちに相手が聞き取りやすい話し方を身につける人もいます。

そのほかにも さまざまな理由が考えられます。

その他

手足が冷えやすい。  
明るくて人とのふれあいが大好き。  
がんな一面もある。  
気持の切り替えがむずかしい。  
いやな事を言えずに我慢してしまう。

— ボランティアの方々へ —

こども達を少しでも分かっていたでいて、過ごしやすくなるよう手助けしていただくと嬉しいです。

〈上記本文P.44, P45〉

5

〈下記本文P.46, P47〉

動作がゆっくりしている

ダウン症の人の動作を見ていると、とてもゆっくりした印象を受けます。

しかし、どんなにゆっくりでも、できない訳では有りません。

動きについては、前に説明しているように、関節や筋肉がやわらかすぎるため、どうしてもゆっくりと慎重になってしまいます。



言葉が聞き取れにくい

ダウン症の人には、聞き取りにくい話し方になってしまう人もいます。

これには、いくつかの理由が考えられます。1つには、口の中の構造に原因がある場合です。たとえば、舌が短い、あるいは長すぎるなどです。

5

(本文P.46)

参考文献

発達と障害を考える本

⑤ ふしぎだね!?  
ダウン症のおともだち

玉井 邦夫=監修  
ミネルヴァ書房



ホームページアドレス

<http://www.minervashobo.co.jp/>

※ 尚、ボランティアへのガイドのために作成されたもので、それ以外のご使用はおやめください。

携帯版

# 知的障害って なあに？



愛知県立三好養護学校 紙の会

## 知的な能力の判断は知能検査ではある

具体的には、精神年齢を、検査を受けた人の実際の年齢で割って100を掛けます。この数値が知能指数（IQ）です。このIQが100であれば、実際の年齢と精神年齢が同じということになります。知的障害の目安となる、明らかなおくれとは、この知能指数がだいたい70に満たない状態をいいます。

### いろいろある知能検査

知能検査にはいくつかの種類があり、一つではありません。知的障害かどうかなどを判断する検査は、誰にでもできるものではなく、必ず、専門家が時間をかけて慎重に行ないます。

(本文P40・41)

## 大人になる間起こったものを 知的障害と言う

「発達期」とは、だいたい18歳くらいまでをいいます。それまでに起こっている事が知的障害の目安の一つです。つまり、大人になってからの知的な能力になんらかの問題が発生した場合には「知的障害」とはいいません。

## 半分以上は原因がおからない

知的障害の状態は人によって千差万別です。またなぜ、その状態になったかも様々です。しかも、ほとんどの場合原因が明らかになっていません。

(本文P42)

②

## 学力だけが知的な能力ではない

知的な能力は、まず学習する時に使います。記憶する・理解する・問題を解決する等といった能力が知的能力です。学習意外にも使います。寒い時には上着を着る、暑い時には上着を脱ぐ。このような判断をする能力も知的能力です。生活する時にも使います。

人が集まると、その集団の中でのルールが作られていきます。それらのルールに自分の行動を合わせる、この能力を適応能力といい、やはり知的な能力と言えます。



## 知的障害の共通の目安は3つ

一般的には、次の3つがそろっている事が知的障害の共通した目安となっています。

- ① 知的な能力の発達に明らかなおくれがある事
- ② 適応行動をすることに明らかな難しさがある事
- ③ その障害が発達期に起こっている事

①

## 子供の頃に見られる主な特徴

### 言葉の発達が遅れる

言葉の発達が遅れている場合でも、自分が使う言葉は少しでも、相手の言っている事は分ることが多くあります。

### ものごとの理解するのに時間がかかる

△□○は形が違うこと、赤・黄色・緑などは色が違うということ。こういった事だけでなく、いろいろなことを理解するのに、個人差はありますが沢山時間がかかります。

### 身につけるまでに時間がかかる

いつも乗っているバスの色が塗り替えられてしまっていると違うバスだと思って乗らないなど、ちょっとした変化に合わせて行動する事が難しいです。

### 初めてのこともやることが苦手

### 記憶する量が少ない

一度に記憶する量が少ないことが多いです。また、記憶してられる時間も短いことが多いです。

### 集中が長時間続かない

(本文P44, P45)

③

自分で判断することを苦手

その場に応じてどうするかを決めることが苦手です。たとえば、いつも通っている道に大きな犬がいて、こわくてその道が通れない時に、回り道をしようという考えが浮かばずにそのままそこに立ち尽くすというような事もあります。

くてその道が通れない時に、回り道をしようという考えが浮かばずにそのままそこに立ち尽くすというような事もあります。



願望が達成しない

動作が遅くなる

手先が不器用

思ったことと実際は違うことを  
犬の目まぐるしくしてしまう

相手にとって嫌な事でも、平気で言うこともあります。これは、悪気があるわけではなく、人の気持ちを想像することが難しいのです。

人に驚かしてしまう

甘えているというのではなく、自信がもてないことや失敗に対する強いおそれなどがあたるために起きるものです。

4

(本文P.46, P.47)

手助けのポイント

手助け1 一度嫌がられたことをしない

自分の嫌だと思ったことをうまく言葉で伝えられない人もいます。表情や身振りでいやそうだな、と気づいたら直にやめる、次からはしないというのも大事です。そういう時は、驚かないできちんと見てください。

手助け2 手助けがうまくいかない時は、理由を考えてみる

なぜ、その人は嫌がったのかな、と考えてみることも大切です。

(本文P.48)

手助け3 上手にできたことを素直にほめる

知的障害のある人が上手にできたときには、どんなに小さなことでも、素直に褒めてください。



手助け4 ゆったりした気持ちで接する

初めての事や変化が苦手な人が多いので、こわがって行動に移すのをためらっていることもあります。「大丈夫?」「ゆっくりでいいよ」などと声をかけて見守ることも手助けのひとつです。

5

(本文P.49)



知的障害のある人とつきあうには

手助けのポイントにあげたものの他、いくつかの工夫があります。

- ☆ 言葉と一緒に身ぶりや絵などを使う
- ☆ 答えやすい聞き方をする
- ☆ 自分から勝ってみる
- ☆ ルールを工夫する
- ☆ はっきりと伝える
- ☆ 理解すること、許すことも大切な手助け

— ボランティアの方々へ —

共に生きる仲間として、自然に接することが出来る人が増えるようにと願ってやみません。

6

(本文P.50, P.51)

参考文献

発達と障害を考える本

① 不思議だね!? 知的障害のおともだち



玉井 邦夫=監修  
ミネルヴァ書房

ホームページアドレス

<http://www.minervashobo.co.jp/>

※ 尚、ボランティアへのガイドのために作成されたもので、それ以外の使用はおやめください。

# じゃんぴんぐフェスタ2008 マンツーマンボランティアさんアンケートまとめ

1. 性別

男性 22名	女性 27名
--------	--------

年代

10代 20名	20代 22名	30代以上 7名
---------	---------	----------

2. ジャンピングフェスタをどのように知りましたか？

市町村 2%	学校 39%	知人 6%	親の会 35%	その他 18%	職場 青年センター
--------	--------	-------	---------	---------	-----------

3. 知的障がい児(者)との交流経験は？

ある 78%	ない 22%
--------	--------

- 大学のサークルで
- ボランティア体験隊で
- 支援員として勤務
- 特殊学級の担任をしていた
- 介護体験で
- 中学、高校の時ボランティアで
- 実習で
- じゃんぴんぐフェスタで
- 兄弟に障がいがある

4. マンツーマンボランティアは大変でしたか？

大変ではなかった 76%	大変 24%
--------------	--------

- あちこち行ってしまって
- ムカデをつかまえようとして
- 初めは言うことをきいてくれなかった
- 接し方に困った
- 何を話しかけてもわからない

5. 児童生徒とコミュニケーションは？

とれた 84%	とれなかった 16%
---------	------------

6. 養護学校の先生のアドバイスはどうでしたか？

参考になった 84%	ならなかった 16%
------------	------------

- 否定的ではなく肯定的という点
- 初めて接する方への接し方を再確認できた
- 先生や親御さんに頼ればよいと気が楽に
- 先生からだと説得力がある
- 対応方法について



7. 保護者や養護学校の先生と話げできましたか？

できた 60%	無回答 40%
---------	---------

- 優しくいろいろ教えてくれた
- 子どもの特徴や対応がわかった
- 当たり前だと思った事が違うと気づかされた
- 子どもを心配したり、しっかり理解していると思った
- 人生権淡してしまった。
- アドバイスをもらって安心した
- とても明るく前向き
- とても大変だが元気
- お礼を言われてうれしかった

## 巻末資料4の2

### 8 知的障がい児（者）に接しての印象は？

- 一般的なイメージと違い、とても大人しく自分のイメージが一変した
- 元気で笑顔でとてもよい経験ができた
- 初めは空気のように扱われていたが、信用してくれると良い子だった
- 色んな所へ出かける等して楽しいことをたくさん体験してほしい
- 素直さが伝わってすごく楽しかった
- 対応がわかれば一緒に楽しめる実感できた
- アニメの事を教えてくれた
- お母さんになついていたので、慣れればもっとコミュニケーションがとれるのかな
- 心で接すれば応えてくれる
- 元気だが繊細
- 子どもにいやされた
- 障がいもひとつの個性
- 思ったより大変
- 個性が豊か
- もっと子ども達のことを知りたくなった

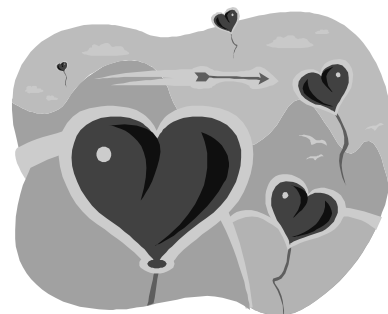


### 9 今後もこういった取り組みに参加したいですか？

したい 100%

### 10 じゃんぴんぐフェスタ2008に参加しての感想

- 父親や兄弟姉妹の参加があり、とても良いと思った
- 介護を母親任せではなく色々な人と関わる事で、本人も周囲も成長すると思う
- 障がいがあっても工夫すれば誰でも仲良くなれる
- 普段体験しにくいプログラムだったが、楽しめた
- 事前の説明がもう少しほしかった
- 高校生、大学生のボランティアがたくさん参加していて心強かった
- マンツーマンで接する機会が得られて良かった
- もっと一緒に楽しめるゲームがやりたかった
- ずっと2人で草むしりをしたが、それも楽しかった
- トイレに石けんがほしかった（子どものおしりをふいたので）
- 音楽がとても美しくまた聴きたい
- まだまだ自分は未熟だと思った
- いろいろな人が笑顔になれるステキな会だと思った
- いい体験になった
- とても楽しかった
- また参加したい



## 巻末資料5の1

### 大規模地震に対するアンケート集計結果について

平成 20 年 7 月 1 1 日に実施しました。大規模災害に対するアンケートへの御協力ありがとうございました。

保護者様の一番の御心配は児童生徒の身の安全をいかにして確保するかという点でした。学校としましては学校と職員が無事である限りは保護者様がお迎えにきてくださるまでお子様を責任をもってお預かりします。ただ、何が起こるかわかりませんので、保護者様や自治体とも協力してできるだけ準備はしておくことが必要だと思っております。

緊急地震速報が発令されたときには必ず学校にお迎えにきていただくこととなりますので御確認ください。スクール・バスは運行できないことを御理解いただきたいと思っております。親の会の緊急メールを使ってメール配信しますが、混乱することもあるかと思われます。おそらく電話はつながりにくくなることが予想されます。何が起こるか予想が付きません。保護者様のアンケートの中に、食料が1日分では少ないという御意見もありました。これを機会に学校でも大規模地震の対応の在り方について各自治体と協力して準備していきたいと思っております。御家庭でも、大規模地震への備えを十分にしていたいただけたらと思っております。以下は集約結果です。下記のように 8 割の方から回答をいただきました。これを基によりよい対応をしていきたいと思っております。

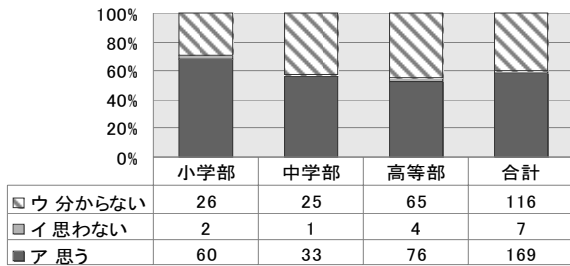
	小学部	中学部	高等部	合計
在籍*	112	75	178	365
回収数	88	59	145	292
回収率	78.6	78.7	81.5	80.0

\*自宅からの本校への通学生に実施しました。

\*一部の質問に対しては未回答の場合もあり、全体数が292となっており、項目もあります。

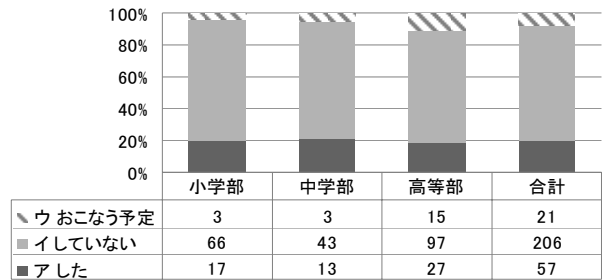
#### 1 大地震や台風などの大規模災害について

(1) あなたは、近い将来大地震や台風などの大規模災害の被害にあうと思いませんか。

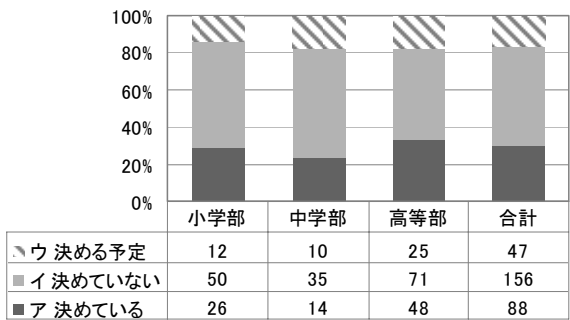


#### 2 家庭での大地震への備えについて

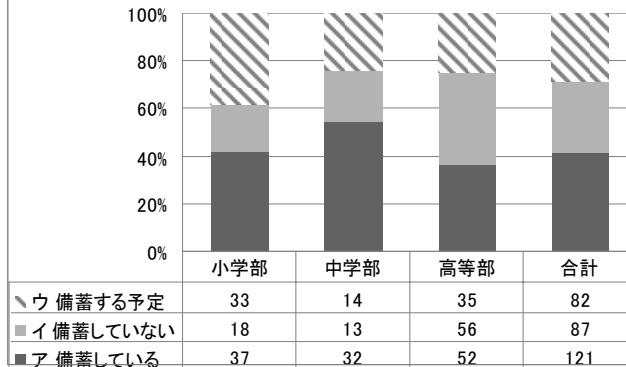
(1) 自宅の耐震診断をしましたか。



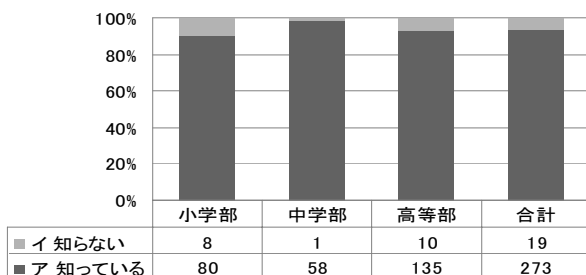
(2) 自宅で大地震に襲われたとき、自宅内で安全な場所を決めていますか。



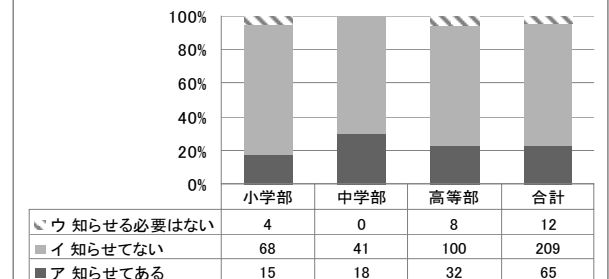
(3) 大地震や台風などの大規模災害に備えて、食料や飲料水を備蓄していますか。



(4) 大規模災害で避難しなければならない場合、避難所を知っていますか



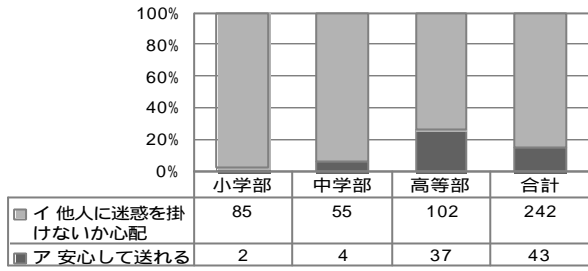
(5) 避難所へ避難することを想定し、お子様の情報を民生委員やボランティアに知らせてありますか。



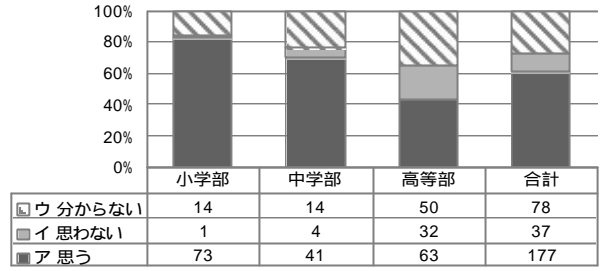


**巻末資料5の2**

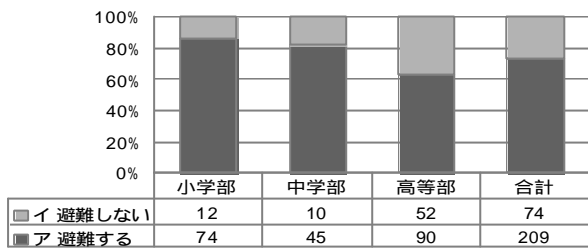
？ 避難所へ避難した場合、お子様や御家族が安心して避難所生活を送れると思いますか。



？ 避難所について、障害のある児童生徒の家族は、一般の避難所と別にした法がよいと思いますか。

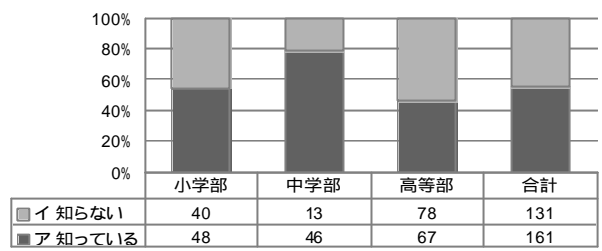


？ 三好養護学校を、障害のある児童生徒の家族の避難場所にした場合、避難できる状況であれば、避難しますか。

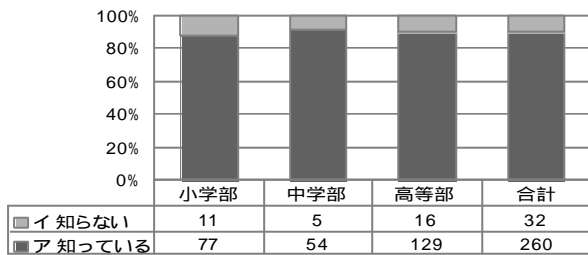


**3 学校での大地震への備えについて**

？ 学校では、1日分の食料と飲料水を備蓄していることを知っていますか。



？ 在校中に東海地震の注意情報が流れた場合、お子様を引き渡すことを知っていますか。



**主な意見(自由記述)**

**【子どもたちの安全】**

**子どもたちの安全確保**

災害時に子どもが学校にいる場合、家が遠いので迎えに行けるのか心配です。保護者が行くまで学校で預かってほしい。家もなくなり、学校へも行けなくなった場合、学校側はどこまで生徒たちに配慮してくれますか？

先生方にも家族がいらっしゃると思いますが、迎えに行くまで子どもたちをよろしく願います。

不意の地震で道路状態が悪い場合、お迎えもままならないような場合はどうなるのでしょうか。

もし親が死んだ場合、子どもを迎えに行けません。その場合どうなるんですか。

東海地震の注意報が出た場合、子どもを迎えに行くことは知っていたが、道路や交通機関の状況ですぐにいけないことが予想される。そのとき子どもはどうなるのか、学校の対処を教えてください。

台風の場合、冠水した道路を走る自信がありません。焦らず道路が落ち着いてから迎えに行かせてほしいと思います。自力通学なので、一人で登下校中に地震が来たら考えると、不安になります。予測のつかない災害を怖がっては何もできませんが、細かな対応をお願いします。

4月にいただいた災害への心構え(？)臨時のお迎えなどきちんと守りたいです。情報をしっかり伝えてください。

**【避難所関係】**

慣れた環境の学校を避難所にしていただけたらと思います

家にいるときに災害が起こり近くの避難所に避難した場合、不安やイライラがつのると思うので、先生たちがその場所へきて、対応や相手をしてほしい。相談などおやのたすけをしてほしい。

息子はたださえ、人がだめなので不安でたまらない。是非とも三好養護学校を障害者の避難所にしてほしい。

生徒の居住地に一般の人と異なる場所をもうけてもらうように要請してほしい。

地域にも、障害のある家族の避難場所があった方がよい。

## ～ 障害の特性に応じた配慮と関わり方 ～

### 知的な遅れのある子どもへ

☆**あらかじめ何を手伝うのか保護者や先生、職員から聞いてください。**

初めてあって話しをしてみただけでは「何を手伝えばいいの?」と覚えてしまう人もいます。その人の「手伝って欲しいこと」に応じた援助が大切です。

☆**言葉の話したい理解したいすることが困難な人もいます。**

表情や身振り・手振りをつけて、ゆっくりと語りかけてください。時には「絵カード」や書いた文字などを見せることも有効です。

☆**気分転換を図れる方法を教えてもらっておきましょう。**

その人の「マイブーム」の話題や、お気に入りのアイテムを聞いておくと、活動への参加の支援がしやすくなります。

☆**人によっては顔の表情の変化が少ない人もいます。**

楽しそうな顔をしないで、じっくり付き添ってみてください。

☆**どうしたら良いか自分で判断できないときは、すぐに近くのスタッフに助けを求めてください。**

### 病気の子どもや体の弱い子どもへ

☆**免疫力が低い児童生徒がいます**

かぜで病状が悪化することもあります。かかわる自分が感染源にならないよう、手洗いや消毒、うがいなどをしっかりして下さい。

活動場所も掃除、除草などを行いアレルギーをできる限り除去してください。

☆**疲れすぎないように気をつけることが大事です。**

健康維持としては、行動の様子や顔色、体重、呼吸などよく観察し、適度な活動を考慮してください。

☆**病気を知られたくない方もいます。**

病気や治療の情報を得た場合は、プライバシー保護に考慮しましょう。

### 目の不自由な子どもへ

☆**わかりやすい言葉での伝え方を工夫しましょう。**

「ここ」「そこ」などの指言語できる人があっても、名前を呼んでから具体的にわかりやすく伝えましょう。

☆**さわってわかることが多いので、一緒に体験しましょう。**

やってみたい、さわりたい、ようだったら、危険のない限りさわらせてあげてください。いろんなことを一緒に、時間をかけてゆっくり体験することが大切です。

☆**まずは見守って、…よくわかっていける場所は一人で歩かせます。**

どうしても困っているようなら、声をかけてください。いきなり手や肩をつかんで引っ張ることは控えてください。

☆**弱視の子どもの見え方は、一人一人違います。**

視力がすたなく、見えやすい距離や、まぶしさ、距離感など一人一人違います。また、全体と部分など細かい動きも見えにくいことが多いので、子どもに聞いて確かめることが大切です。

### 発達障害を示す子どもへ

(LD、ADHD、高機能自閉症等)

☆**注意を向けさせてから具体的に短く話します。**

「行動や予定の見通しを持たせる」ことが大事です。外出や一緒に行動する時、予定のメモや写真があると安心です。

☆**あたまごなしに「だめ!」と言われると驚いてしまいます。**

禁止語に反対する子どももいます。しかし、「絶対やってはいけないこと」はきっちり教えてください。

☆**「良いところは褒める」ことが大切。**

話しかかり、目立ちかき、場の雰囲気を読み取れない時があるのでそのときは優しく「○○をしましょうよ。」と教えてください。

☆**かわいくても大人として節度を持った対応を!**

お金の貸し借りはせず、携帯の番号やアドレスは教えなくてください。

### 肢体の不自由な子どもへ

☆**いろいろな障害のタイプや援助場面があります。**

本人の承諾と確認をとり、家族等から介助方法について聞いて、実際にやってみながら無理せず慣れていくことが大切です。

☆**まずは、お話、車いすの押し方から。**

障害が重い子どもでも、しっかり雰囲気を感じています。たくさん声をかけてください。また、周りの支援者に車いすの押し方を習い、実際に押させてもらうことから始めるとよいと思います。

☆**あなたの趣味や特技を活かして、一緒に活動し、一緒に楽しんで下さい。**

「うた」を歌うこと、聴くこと、お出かけすること、スポーツをすること、パソコン、車いすダンス、映画鑑賞、お話をすること。みんな好きです。一緒に楽しめる活動を見つけてください。

### 耳の不自由な子どもへ

☆**話そうとする気持ちがあれば  
コミュニケーションは成立します。**

子どもによって聞こえ方はさまざまですが、みんなおしゃべりが大好きです。手話からなくても、どんどんお話ししてください。

☆**「対面で」お話をしてください。**

相手の唇を読む読話(どくわ)や手話・指文字による表現をすることが多いので、配慮をお願いします。多くの子どもは読話(どくわ)しますので、ゆっくりと口をはっきり開いて話することも効果的です。

☆**子供の目線に合わせることが大切です。**

筆談、ジェスチャー、補聴器を活用して口話(こうわ)を駆使します。また、読話や手話でのお話も、目線を合わせることは大切なポイントです。

発行 全国特殊学校長会  
独立行政法人 福祉医療機構助成事業  
子育て支援基金助成事業 (一般分)

# 呑父初研修会 「避難所体験&秋まつり」新聞に掲載!!

15 全道新聞 三河 2008年(平成20年)10月4日(土曜日)



防災グッズを確かめる参加者ら。三好町の三好養護学校で



活動にご理解頂きありがとうございます!

## 慣れない場所安心して 知的障害児ら避難所体験

### 三好 非常食や仮設トイレ

県立三好養護学校の父親らでつくる呑父会(おやじの会)と三好町良行会長らは、自然災害に備えて、三好町打越山ノ地の同校体育館で、知的障害の子どものための避難所体験を行った。

知的障害の子どもたちは、初めての出来事が苦手で、見知らぬの人が集まる慣れない避難所などはパニックをおこすことが予想され、保護者は大きな不安を抱えていることから初めて企画。同校の児童、生徒八十人をはじめ家族、ボランティアら約三百人が参加した。夕方に毛布と懐中電灯を持って自宅から体育館に集合。ステッカーパンなど非常食の試食体験や仮設トイレの利用を試みた。

勉強会で、東海堂用たい」と話している。

で被災した障害者へのボランティア活動を体験したNPO法人コンビニの会の大川美知子代表は「地域のみなさんに子どもたちのことを知ってもらおう」と、災害時に役立つと、地域のネットワークの重要性を指摘した。同会は「障害者が安心して暮らす福祉避難所の指定に向けて努力し

〈つぶやき〉

- ・参加してくれた児童生徒の皆さんが体育館で予想以上に静かだったので驚きました。  
～ビックリ～
- ・多数の市町からたくさんの非常食を頂き、みんなで試食ができました。  
～美味?～
- ・従志ボランティアさんの年齢が10代から60代と、とても幅広い年齢層でした。  
～感謝～
- ・秋まつりの夜店では、豚汁が生ぬるく金魚もなばが寒そうに泳いでいました。  
～やっば・夏まつり～

■ 実は・・・こんな会話がこの活動の始まりでした ■

「あのさあ～もし地震がきたら、うちらの子ども達は体育館で避難所生活できると思う???」  
⇒「うちの子はまずダメだわ! 休みの日に学校に行くこともエライことだで～!!」  
「生活のパターンが変わるとパニックになるし・・・夜なんかとんでもないに～!!」  
「まいでもさあ、何とかせんとイカンだら～?」「そいじゃあ、いっぺん疑似体験してみる??」  
「ところで、三好養護学校の体育館って避難所に指定されとるの??」等々

障がいをもつ子どもの保護者が抱える不安が何なのかいろいろ見えてくるかも知れない・・・とにかくやってみながら考えてみよう・・・という思いでした。

手探り状態で取り組み始めた活動でした。学校(校長先生)のご協力と各市町からのご指導とご支援をいただき、また多数の保護者の皆様のご理解とご協力もあり無事【避難所体験】を実施することができました。

今後も引き続き取り組んでいきたい活動だと感じています。ご理解、ご協力よろしくお願ひします。ml\_ \_lm

